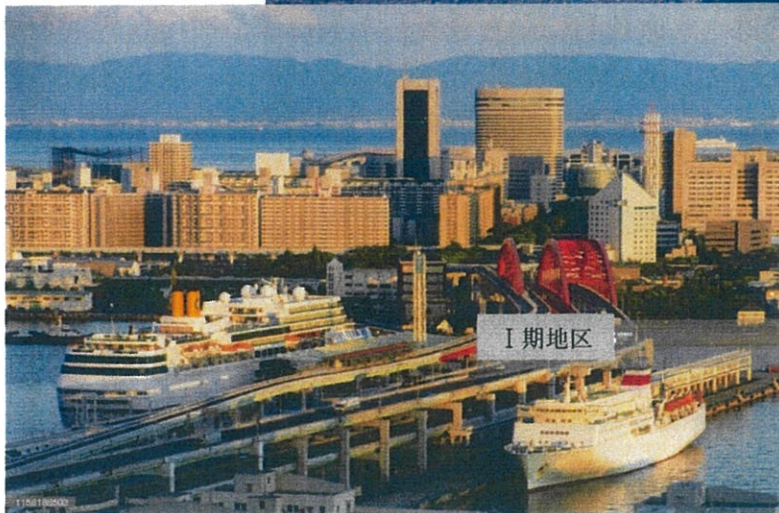


港島防災福祉コミュニティ

地域おたすけガイド

(港島地区防災計画書)



初年度 (令和2年7月作成)

港島自治連合協議会 内

港島地区防災対策委員会

港島防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

(港島地区防災計画書)

防コミ運営本部設置基準

- ・震度 5 弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨、高潮等で警戒情報が発表された場合。

活動方針

「備えあれば憂いなし」

「継続は力なり」

阪神・淡路大震災では、人命救助に最も貢献したのは隣近所の住民であったという実績が物語るように、地域コミュニティによる共助は、特に発災直後の防災活動にとっては欠くことのできない重要なものである。

- ・自然災害に対する地区の課題（強みと弱み）を明確にする。
- ・地区の特徴を生かした防災計画を策定する。
- ・継続性を重視し、地区防災計画を年々充実させてゆく。
- ・自主防災組織であることを認識し、自らの安全を確保し、自分たちの出来る範囲での防災活動とする。

防コミ運営本部：港島地区防災対策委員会（港島ふれあいセンター）
情報収集・伝達・避難所との連絡

ブロック本部：各マンション管理組合又は自治会
安否確認、救出活動、消火活動
要援護者の避難支援

1 港島地区について

(1) 港島地区の概要

ポートアイランド（愛称：ポーアイ）は、1981年に街開きをした、神戸市中心部三宮の南、神戸空港の北に位置する海上の人工島である。

1期地区は、港湾機能、住宅、国際会議・展示場、商業等の総合的機能を持った海上文化都市として開発されてきた。

しかしながら、1995年1月、阪神・淡路大震災が発生し、島全体が液状化現象等により甚大な被害を受け、その影響で商業施設等の多くの施設が島から撤退、震災年に16,965人だった人口は2003年には14,000人台にまで落ち込んだ。

その後2期地区は、1998年に「神戸医療産業都市」に指定、さらに、2014年には、国家戦略特区に指定されて、現在は国内最大級の医療地域として注目されている。

大震災の復活の転機となったのは、2006年の神戸空港の開港である。ポーアイの沖合1キロメートルに造成された人工島に開港し、空港大橋が架橋され、ポートライナーが複線化し、空港まで伸延した。

さらに、2007年には、1期地区の西地域が都市再生緊急整備地域に指定され、ポーアイ4大学のキャンパスが開校、さらに中学、高校も増加し、神戸市有数のキャンパスゾーンが形成されてきた。

現在、島の北側では神戸大橋と1992年完成の港島トンネルの2経路で神戸市中心部と結ばれ、南側は空港大橋で繋がっている。人口も15,000人台と増加傾向にある。

ただし、地区の高齢化率は30%を超え、中央区23% 神戸市28%を上回っている。

(2) 阪神・淡路大震災の被災状況

最大震度7の直下型地震で大きな縦揺れに襲われた。1期埋立地全域の大規模な液状化被害は顕著であった。そのため、地盤と建物の間に隙間ができて大きな段差が発生した。また、岸壁では地盤が大きく側方に動いて沈下し、港湾部にあるすべてのコンテナバースが破壊され、埠頭のガントリークレーンも大きく傾いて使用不能となり、世界有数の神戸港の地位が一気に低下した。

- ・1期全域が液状化し、地面が激しく不同沈下した。
- ・当時、三宮と結ぶ唯一の経路、神戸大橋にズレが生じ一時自動車通行不可能になり、島が孤立した。徐々に上下一車線が通行可能となるも常時大渋滞が発生。
- ・橋脚等の落下や駅舎の損壊で、ポートライナーは半年間運行休止となり、また阪神高速が開通したのは8月。
- ・電気は当日中に回復したが、水道・ガスは1カ月以上使用出来ず。
- ・マンションの共用立管や地中の排水管が破損し、仮設トイレを設置して凌いだ。

2 港島（ポートアイランド）地区防災計画策定委員会の設立について

1981年に人工島のポートアイランドが誕生してまもなく、各マンション管理組合や自治会、各種団体で「住民の生活と環境を守る」ことを目的に、港島自治連合協議会が組織され、現在まで地区住民の窓口として活発に活動している。

この自治連合協議会に、数年前から、加盟マンションや地区の消防団等から島内全体での地区防災計画づくりや防災訓練実施の要請があり、2018年に、港島自治連合協議会傘下の委員会として港島地区防災対策委員会を設置することが決議された。

その後、防災士や元消防署幹部等の管理組合役員の有志でプロジェクトチームを立ち上げ、1年間かけて、兵庫県復興支援課、神戸市危機管理室等の防災担当窓口、地元の水上消防署等とも協議を重ね、2019年4月に各マンションから委員を選抜するとともに、水上消防署にもアドバイザーとして出席を依頼して、正式に港島地区防災対策委員会が20名規模で発足した。（資料①）

港島地区マンション概要（全11住宅）

名称	形態	建築年	棟数	総戸数
ポートアイランド住宅	分譲	82~84	9	941
ポートピアプラザ	分譲	84~89	6	860
エバークリーン	分譲	81	10	686
パークシティ	分譲	84	3	480
ポートビレジ	分譲	81	4	486
イトーピア	分譲	08	1	190
ルイシャトレ	分譲	06	1	97
アルス	分譲	04	1	76
公団(UK)	賃貸	80	17	2400
市営住宅	賃貸	79	4	600
ビレッジハウス	賃貸	82	1	200
合計				7016

3 避難計画について

(1) 避難は、自宅避難を原則とする

この地区の居住形態はマンションだけで戸建住宅がないことから、この地区の避難方法は、高層で、堅牢な鉄筋コンクリート建物の自宅避難を原則とする。

通常の避難所は、騒音、スペース不足、トイレの不足と不衛生、偏った食料、プライバシーやコミュニティがない、風邪、新型コロナウイルス等の感染症リスク等の劣悪な環境に置かれている。また、避難所へたどり着くまでのリスク、といったデメリットもある。

それに比べ、自宅避難には、住み慣れた部屋、プライバシー、使い慣れた寝具、衣類、近所とのコミュニケーション等の多くのメリットがある。

(2) 自宅での備えを十分にする（10日分の食料等の備蓄）

★自宅の安全を確保する

耐震改修、家具固定、ガラス飛散防止フィルムの貼付等

★10日間分の食料等の備蓄（資料②）

水、食糧、卓上ガスコンロ、非常用トイレ袋等の備蓄

電気、ガス、水道、エレベーターが停止した状態で自宅避難するためには、建物、部屋の安全性の確保と、食料等の十分な備蓄が必要である。

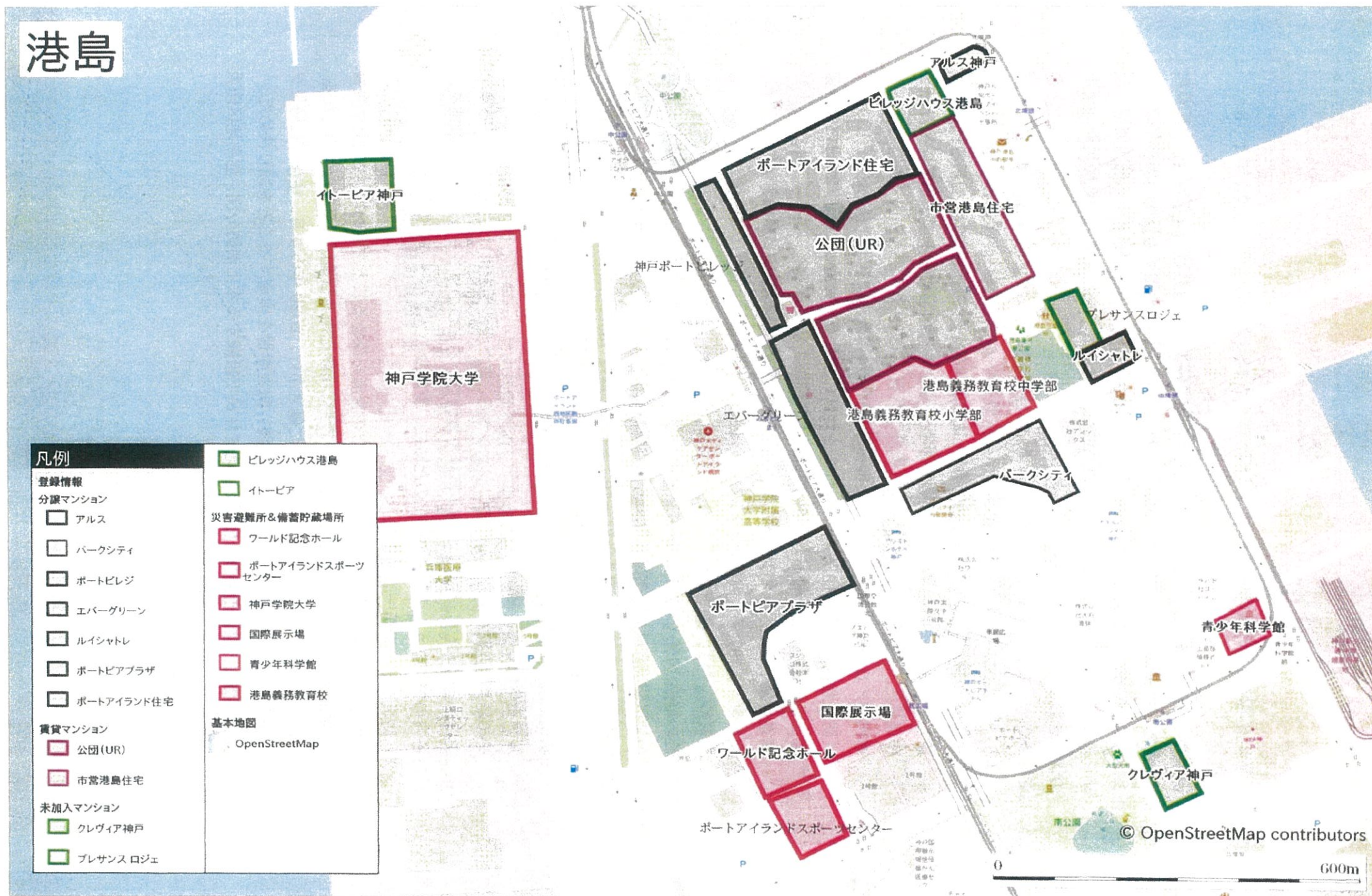
南海トラフ地震が発生すると、被災地域は広大となり、1週間では、電気やガスや行政の支援も届かない可能性があり、また、ポートアイランドは、三宮と2つの経路でしか繋がっていないため、長期に孤立の恐れもある。

※神戸市中央区「くらしの防災ガイド」の港島地区の避難所は、津波避難場所として6か所の地区内公共施設等が記載されているが、災害が発生すると、自動的に住民を避難所に誘導する恐れがある。しかしながら、マンションは使用可能であれば自宅避難が原則なため、他の地区とは異なった避難所の使い方等についてさらに委員会で検討を進めていく。

港島地区ハザードマップ



港島



凡例

登録情報

分譲マンション

- アルス
- パークシティ
- ポートビレジ
- エバーグリーン
- ルイシャトレ
- ポートピアプラザ
- ポートアイランド住宅

賃貸マンション

- 公団 (UR)
- 市営港島住宅

未加入マンション

- クレヴィア神戸
- プレサンス ロジェ

災害避難所&備蓄貯蔵場所

- ワールド記念ホール
- ポートアイランドスポーツセンター
- 神戸学院大学
- 国際展示場
- 青少年科学館
- 港島義務教育校

基本地図

OpenStreetMap

4 初年度地区防災計画の策定活動について

初年度は、専門家のアドバイスを受け、今後の地区防災計画を実効性の高いものとするために、地区住民の現状の防災意識に関するアンケート調査と、地区の住民全てがマンションに暮らしていることから、各マンション管理組合・自治会の建物概要から防災対策の現状と計画等を網羅したマンション防災カルテの作成に重点を置いて、地区防災計画策定の活動をおこなった。

(1) 防災ワークショップの実施

兵庫県の「ひょうご安全の日推進事業」の助成を受けて、計画等策定支援専門家を派遣して頂き、年間10回の防災ワークショップを開催して初年度の地区防災計画を作成した。(資料③-1、③-2)

専門家：兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 澤田雅裕准教授

「防災意識に関する住民アンケート」を地区の全世帯で実施し、11月23日に分析報告会を住民対象に開催した。出席者96名。

調査対象：地区内全マンション管理組合等11住宅の入居者 7,016戸

配布数：6,567戸 回収数：1,271戸 回収率：19.3%

(資料④-1、④-2)

その結果、10の設問に対して、様々な予期していなかったデータが集積され、今後の地区防災計画を策定する際の有効な資料となった。

(2) 各マンション防災カルテの作成

各マンションの防災に関する立ち位置を明確にするために、建物概要 過去の被災状況 現在の防災対策 今後の防災計画 アンケート結果の図表等を内容とするカルテを作成した。(資料⑤)

その結果、防災対策の進んだマンションから、まだ全く手を付けていないところまであり、とりあえず、先行して防災訓練を重ねている5つのマンションの防災訓練を、各自のマンションの防災力強化のために、委員会のメンバーで見学した。

(3) 防災ジュニアチームを結成

中学生の防災意識を高め、また、住民との交流を深めることを目的に、さらに、災害が平日の昼間に発生したときなど、中学生は高齢化が進む地区の貴重な戦力となるため、地区の神戸学院大学附属中学校に働きかけ、2020年の4月、中学校に防災クラブを立上げ、1年間12回の防災訓練、防災学習を実施することを取り決めた。水上消防署、港島自治連合協議会、地区住民で組織する水上消防分団、港島地区防災対策委員会がバックアップする。

(資料⑥-1～⑥-3)

5 2年次地区防災計画の検討について

(1) 地区総合防災訓練・炊き出し訓練の実施

地区住民を対象に総合防災訓練を実施することで、住民間の交流を深め、防災意識の向上を図る。また、地区住民にあまり知られていない、大災害時での飲料用、消火用の目的で設置されている中公園大容量貯水槽の存在を周知する。

大容量貯水槽についての概要、目的、使用方法等を水道局中部センターの担当者から説明を受け、専用リュックを使用した水運びを体験する。

その後、水上消防署、水上消防署港島分団の指導の下に、消火訓練、バケツリレー、AED講習、担架訓練等の総合防災訓練を同時に実施する。

参加へのモチベーションに、豚汁の炊出し、各種訓練参加のスタンプカードによる子供さんへの景品プレゼント等を提供する。

水上消防署、水道局、水上消防団港島分団、港島自治連合協議会、一大学、中学校等と連携して毎年の実施を検討する。

(2) マンション防災マニュアルを検討

災害時の防コミ運営本部とブロック本部となる各マンション管理組合・自治会間の情報の集約と伝達についての検討と、平常時、被災直後3日間の、マンション独自の防災組織、安否確認、避難方法等について検討し、マニュアル化につなげる。

(3) 防災ジュニアチームの発足と育成

中学生の自立を促し、この活動を通して地域住民と交流を深められるよう、スタート時から1年間の防災訓練、関連施設の見学等効率的なワークスケジュールを検討し、水上消防署、港島自治連合協議会、消防団、大学等の支援を受けながら、各種防災訓練を実施する。



資料集

神戸市中央区港島（ポートアイランド）地区防災計画報告書



食料等の備蓄案

- ・マンションは、自宅避難を原則とし、支援が届くまでの期間はだれにも頼らず暮らせるようにする。
- ・ポートアイランドは、三宮と2経路の道路でしか繋がっていないため、長期間孤立する恐れがある。
そのため、自宅で避難生活をするためにも、食料等の備蓄品は、少なくとも10日間分程度の備蓄が必要。
- ・ローリング（循環）ストック（備蓄）方式で効率よく備蓄する。日ごろから活用している物を少し多めに備える。

種類	1日	10日間	備考
水	3L/人	30L/人	2Lペットボトル15本
カセットボンベ	2本/戸	20本/戸	カセットコンロ用 強火で約70分
食料 ①アルファ米 ②ポリ袋調理 米 1回100g パスタ 1回100g シリアル1回 80g ジュース1回 1本 ③その他食品	3袋/人 100g/人 100g/人 80g/人 1本/人	30袋/人 1K/人 1K/人 800g/人 10本/人	水又は湯を使用 1日2回温かい主食を作る 湯煎用ポリ袋を使用 グラノーラ コーンフレーク等 野菜ジュースはミネラルやビタミン不足を補うことができる。 缶詰(魚、野菜、果物) レトルト食品 乾麺 チーズ等
非常用トイレ袋	8袋/人	80袋/人	個液分離すると一人1日1袋が可能 個(大と紙)液(小)液を検尿方式で採取し下水管に放流

※高齢者や病人、乳幼児のいる家庭では、震災時にはすぐに手に入らない物を多めに用意しておく。
 高齢者や病人のいる家庭—おかゆなどのやわらかい食品、常備薬。
 乳幼児—液体ミルク（個包装）、離乳食、おむつ。

2019年度 港島地区防災対策委員会 開催履歴

年月日	タイトル	内容	出席者数
2019.4.17	委員会発足式	挨拶 自連協川岸会長 消防署首村副署長、委員長	19名
4.19	専門家打合せ	澤田先生とスケジュール等の検討 委員会(4)	5名
5.25	三者打合せ	澤田先生、自連協正副(川岸、村上) 委員会(4)	7名
6.17	第1回委員会	地区防災とは、進め方、アンケートについて	14名
7.7	第2回委員会	住民向け防災意識に関するアンケートの検討	20名
8.27	第3回委員会	アンケート回収状況、ハザードマップの作成	19名
9.18	第4回委員会	アンケート結果中間報告	17名
10.26	第5回委員会	アンケート分析、アンケート報告会の検討	21名
11.23	第6回委員会	アンケート分析報告会(住民向け)	96名
12.18	第7回委員会	報告会結果、各マンション防災カルテ素案	23名
2020.1.29	第8回委員会	各マンション防災カルテ内容の説明、検討	20名
2.26	第9回委員会	各マンション防災カルテ最終案、1年次とりまとめ	24名
3.23	第10回委員会	新型コロナウイルス感染防止のため中止	
6.14	第10回委員会	初年度総括・2年次計画、避難所見学	24名
2.23	災害対応ゲーム	「クロスロードゲーム」実施	18名

2019年度 港島地区防災対策委員会 外部打合せ履歴

年月日	外部名	打合せ内容
<防災ジュニアチームの結成>		
2019.6.21	神戸学院大学	防災ジュニアチーム結成、マンションへの大学生派遣 事務リーダー飯田 社会連携前田 委員会（4名）
9.24		防災ジュニアチーム結成、マンションへの大学生派遣 江田准教授、柴田助手、委員会正副会長（4名）
10.17		附属中学に防災クラブ設立を提案 たたき台を作成する 事務リーダー飯田 委員会正副会長4名
10.25	水上消防署	たたき台（趣旨、訓練スケジュール、修了証）作成 首村副署長、三宅氏 委員会正副会長4名
12.5		たたき台を提示 検討 教頭学校に持ち帰り協議 附属中学福島教頭 飯田 水上消防署（2）委員会（4）
2020.2.20		防災クラブ発足決定 発足会概要検討 附属中学福島教頭 水上消防署（2）委員会（4）
2019.7.16	港島学園	防災ジュニアチーム結成について 柳田中等部校長 教頭 水上消防署（2）委員会（4）
<中央区 社会福祉協議会 との連携>		
2019.8.5	中央区 社会福祉協議会	中学生防災教育支援事業「クロスロードゲーム」に参加 委員会正副会長（4）
12.5		港島学園中等部災害対応ゲーム「クロスロード」打合せ 社会福祉協議会中村部長 宗森課長 委員会正副会長（4）
2020.1.17		港島学園中等部（240人）「クロスロードゲーム」実施 コメンテーターとして参加 委員会正副会長（4）
<その他>		
2020.2.24	すまいるネット	地区防災計画セミナーで港島地区活動内容発表（委員長） 委員会副会長（3）
2020.2.27	中央区総務課	地区指定避難所5か所見学 後藤総務係長他2名 よこはた市議 委員会正副会長（4）

アンケートの概要

・調査対象

- 港島地区のマンション11棟の入居者 (7,016戸)
- 配付数 6,567票
- 回収数 1,271票 (回収率 19.3%)

・調査日時

- 7月中旬から配付 8/6締切で回収

・調査内容

- 阪神・淡路大震災の経験
- 2018年の自然災害時における被害等
- 普段の備え
- 自主防災組織への期待
- 防災行政無線の認知 等



集計結果 (全体報告)

・回収状況

	戸数	配付数	回収数	回収率
ポートアイランド住宅	941	911	267	29.3%
ポートピアプラザ	860	800	166	20.8%
エバーグリーン	686	670	130	19.4%
パークシティ	480	480	200	41.7%
ポートビレジ	486	486	161	33.1%
イトーピア	190	190	43	22.6%
ルイシャトレ	97	95	21	22.1%
アルス	76	74	28	37.8%
公団 (UR)	2400	2073	123	5.9%
市営住宅	600	600	108	18.0%
ビレッジハウス	200	188	23	12.2%
合計	7016	6567	1271	19.3%



入居形態・阪神大震災の経験

住戸の所有形態

	回答数	割合
自己所有	906	71.3%
親族所有	47	3.7%
法人所有	9	0.7%
賃貸	245	19.3%
その他	9	0.7%
無回答	55	4.3%

阪神・淡路大震災の経験 (今の住戸)

	回答数	割合
経験した	677	53.3%
経験していない	581	45.7%
無回答	13	1.0%



2018災害時の避難行動

大阪北部地震時の避難

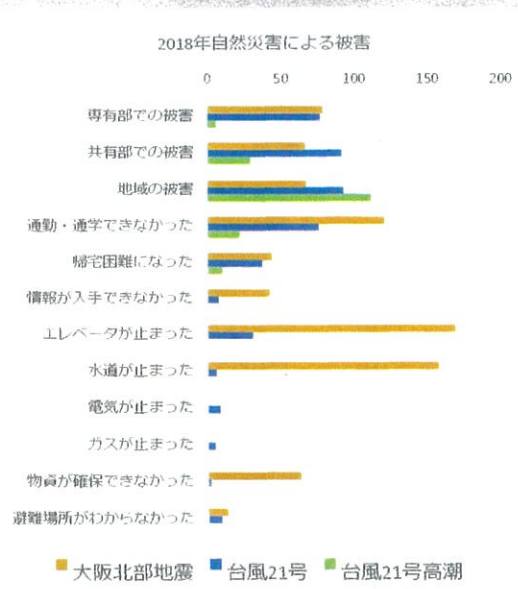
	回答数	割合
避難行動の必要はなかった	1108	87.2%
必要はあったが行動しなかった	22	1.7%
避難した	27	2.1%
無回答	114	9.0%

台風21号災害時の避難

	回答数	割合
避難行動の必要はなかった	1146	90.2%
必要はあったが行動しなかった	28	2.2%
避難した	8	0.6%
無回答	89	7.0%



2018災害時の被害



大阪北部地震の被害		
被害	回答数	割合
専有部での被害	78	6.1%
共有部での被害	66	5.2%
地域の被害	67	5.3%
通勤・通学できなかった	120	9.4%
帰宅困難になった	44	3.5%
情報が入手できなかった	42	3.3%
エレベータが止まった	169	13.3%
水道が止まった	157	12.4%
電気が止まった	0	0.0%
ガスが止まった	0	0.0%
物資が確保できなかった	63	5.0%
避難場所がわからなかった	13	1.0%

台風21号の被害		
被害	回答数	割合
専有部での被害	77	6.1%
共有部での被害	91	7.2%
地域の被害	93	7.3%
通勤・通学できなかった	76	6.0%
帰宅困難になった	37	2.9%
情報が入手できなかった	7	0.6%
エレベータが止まった	31	2.4%
水道が止まった	6	0.5%
電気が止まった	8	0.6%
ガスが止まった	5	0.4%
物資が確保できなかった	2	0.2%
避難場所がわからなかった	9	0.7%

高潮の被害		
被害	回答数	割合
専有部での被害	6	0.5%
共有部での被害	29	2.3%
地域の被害	111	8.7%
通勤・通学できなかった	22	1.7%
帰宅困難になった	10	0.8%
情報が入手できなかった	0	0.0%

災害後の心配の有無・災害時の心配事

大阪北部地震後の心配事			災害時の心配事			
	回答数	割合	当てはまる	うち最も当てはまる	当てはまる割合	
なし	653	51.4%	専有部の被害	571	73	44.9%
あり	300	23.6%	共有部の被害	429	15	33.8%
無回答	38	3.0%	食への確保	706	62	55.5%
			飲み物の確保	715	54	56.3%
			トイレの確保	881	119	69.3%
			電話・ネットの確保	460	16	36.2%
			電源の確保	634	41	49.9%
			情報の確保	463	23	36.4%
			常用薬の確保	266	13	20.9%
			エレベータの停止	568	51	44.7%
			避難所への移動	192	11	15.1%
			避難所での避難生活	352	31	27.7%
			地域の人との助け合い	253	15	19.9%
			通勤・通学・帰宅困難	255	16	20.1%
			室内の片付け	233	10	18.3%
			駐車場の浸水	167	8	13.1%
			港島の孤立	536	84	42.2%

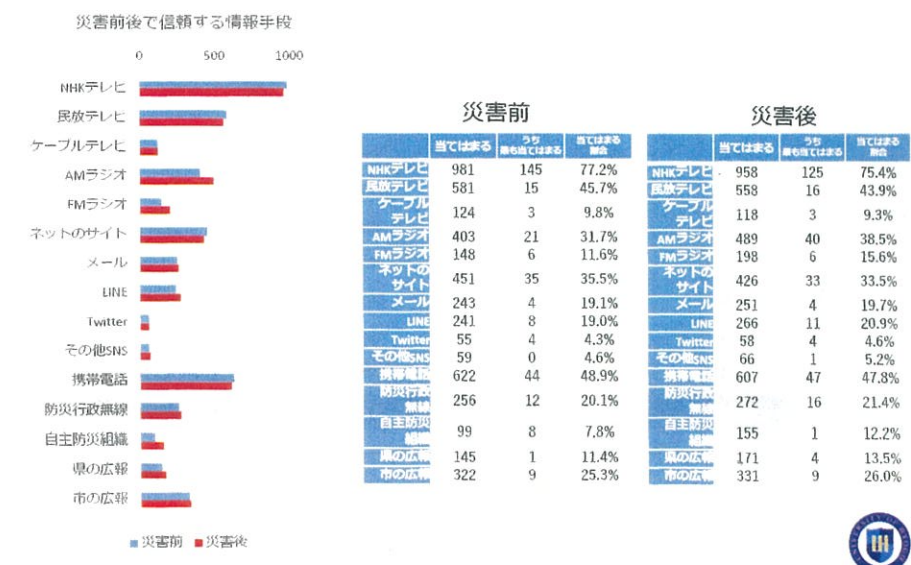
台風21号後の心配事		
	回答数	割合
なし	603	47.4%
あり	179	14.1%
無回答	489	38.5%

高潮後の心配事※		
	回答数	割合
なし		
あり		
無回答		

自宅での災害への備え

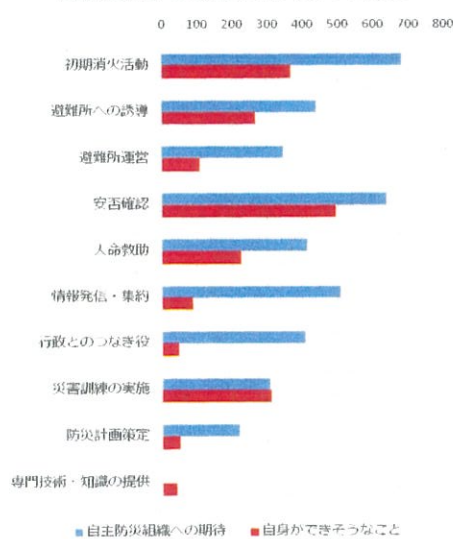
	している	割合
食料の備蓄	677	53.3%
飲料水の備蓄	797	62.7%
非常用持ち出し袋の準備	359	28.2%
家具の転倒防止	472	37.1%
避難場所の確認	291	22.9%
家族の連絡先確認	432	34.0%
要支援者名簿への掲載	10	0.8%
自主防災活動への参加	129	10.1%
常用薬の確保	291	22.9%
非常用電源の確保	76	6.0%
非常用トイレの確保	178	14.0%
消火器	275	21.6%
卓上コンロ・ボンベ	474	37.3%
車のガソリン	60	4.7%

災害前後で信頼する情報手段



自主防への期待・自身ができること

自主防災組織への期待と自身ができそうなこと



自主防災組織への期待

	当てはまる	うち 無も当てはまる	当てはまる 割合
初期消火活動	682	4	53.7%
避難所への誘導	441	1	34.7%
避難所運営	345	0	27.1%
安否確認	637	1	50.1%
人命救助	414	0	32.6%
情報発信・集約	507	1	39.9%
行政とのつなぎ役	405	1	31.9%
災害訓練の実施	305	0	24.0%
防災計画策定	219	2	17.2%

自身でできそうなこと

	当てはまる	うち 無も当てはまる	当てはまる 割合
初期消火活動	367	20	28.9%
避難所への誘導	266	4	20.9%
避難所運営	107	2	8.4%
安否確認	493	31	38.8%
人命救助	225	13	17.7%
情報発信・集約	87	8	6.8%
行政とのつなぎ役	46	0	3.6%
災害訓練の実施	310	17	24.4%
防災計画策定	49	1	3.9%
専門技術・知識の提供	40	1	3.1%

防災行政無線の認知・覚知

防災行政無線の認知

	回答数	割合
存在も場所も知っている	272	21.4%
存在は知っている	578	45.5%
存在も場所も知らない	334	26.3%
無回答	87	6.8%

防災行政無線の覚知

	回答数	割合
自宅内外で聞いたことがある		
自宅内で聞いたことがある		
自宅外で聞いたことがある		
自宅では聞こえない		
聞いたことがない		
無回答		



地区防災計画の認知

	回答数	割合
全く知らない	476	37.5%
聞いたことはある	510	40.1%
少し知っている	135	10.6%
だいたいを知っている	54	4.2%
全体を知っている	11	0.9%
無回答	85	6.7%

備えに関する広報・警戒レベルの認知

神戸市の災害への備えに関する広報についての認知

	回答数	割合
神戸市のHP等、ネットの情報	216	17.0%
くらしの防災ガイド	796	62.6%
広報誌KOBE	727	57.2%
広報チラシ	276	21.7%

警戒レベルを用いた避難勧告等の認知

	回答数	割合
全く知らない	151	11.9%
聞いたことはある	251	19.7%
少し知っている	288	22.7%
だいたいを知っている	421	33.1%
全体を知っている	97	7.6%
無回答	63	5.0%



地区住民への防災意識に関するアンケート調査の結果 (2019.11.23)

NO	質問他	回答結果	コメント
1	住戸所有形態 (11住宅)	所有80% 賃貸20%	分譲マンション8住宅 賃貸3住宅
2	回収状況(19%)	分譲27% 賃貸9% (市住18% UR6%)	回収率：分譲が賃貸の3倍高い 賃貸の中では、市住はURの3倍高い
3	阪神・淡路大震災の経験	経験53% なし46% 経験あり 新築年1985年前後65～70% 1995年以降0～10%	神戸市他地区に比べ経験者が多い 大震災後建築の住宅で経験者ゼロもある
4	自宅での災害への備え	水63% 食料53% コップ37% 消火器22% 非常用トイレ袋14%	災害時の心配事のトップがトイレ確保 なのに、非常用トイレ袋の備蓄が極めて低い
5	災害時の心配事	トイレ確保69% 水56% 食料56% 電源確保50% EV停止45%	
6	災害時で信頼する情報手段	NHKTv77% 携帯49% 民放TV46% AMラジオ38% ネット36%	NHKTvが最も信頼されている
7	自主防災組織への期待	初期消火54% 安否確認50% 情報発信40% 避難所誘導35%	初期消火と安否確認が期待されている
8	自身でできそうなこと	安否確認39% 初期消火29% 災害訓練24% 避難所への誘導21%	安否確認4割、初期消火、災害訓練と続く
9	地区防災計画の認知	聞いたことあり40% 全く知らない38% 少し知っている11%	全く知らないが4割近い
10	防災行政無線の認知	存在は認知46% 存在も場所も不認知26% 両方を認知21%	知っているが7割近い
11	神戸市の災害への備えに関する広報についての認知	くらしの防災ガイド63% 広報誌KOBÉ57% 広報チラシ22%	くらしの防災ガイド、広報誌KOBÉが6割前後の認知
12	警戒レベルを用いた避難勧告等の認知	だいたい知っている33% 少し知っている23% 聞いたことはある20% 全く知らない12%	全く知らないは約1割と低い

ポートアイランド住宅

■マンションの概要

マンション名	ポートアイランド住宅	
竣工年月	1982年8月 ～ 1984年5月	
総戸数	941	戸
棟数	9	棟
居住者数	2,200	人



■防災組織

組織名	災害対策委員会
所属人数	23 人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	有	44・45号棟には壁面亀裂等損傷。全棟建物一部損壊の評価 45号棟外壁一部落下
建物設備の被害	有	停電（夕方5時頃回復） ガス（1か月後 回復） 水道（ガスより数日遅れ 回復） 45号棟高架水槽破損
専有部の被害	有	部屋閉じ込め・家具転倒 通電後、倒れていた電気スタンド加熱、火災発生
共用部の被害	有	エレベーター閉じ込め 2か所 立体駐車場一部破損 駐車場屋根破損 敷地いたる所に段差発生

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

共用部の被害	有	エレベーター止まる（7：58～13：00頃）
--------	---	------------------------

◇台風21号（2018年9月4日～）

建物設備の被害	有	屋上塔屋 雨水管水たたきブロック不良 41号棟屋上防水シート破損 一部屋根破損
共用部の被害	有	雨水管支持金具破損 14ヶ所 防風ガラス窓ボルト欠損 14ヶ所 バルコニー仕切り版破損 2ヶ所 植樹倒木 3本

■入居形態（アンケート回答 n=268）

	割合
自己所有	90.3%
親族所有	4.1%
法人所有	1.9%
賃貸	0.4%
その他	0.0%
無回答	3.4%

■阪神・淡路大震災の経験

(アンケート回答 n=268)	割合
経験した	66.0%
経験していない	33.2%
無回答	0.7%

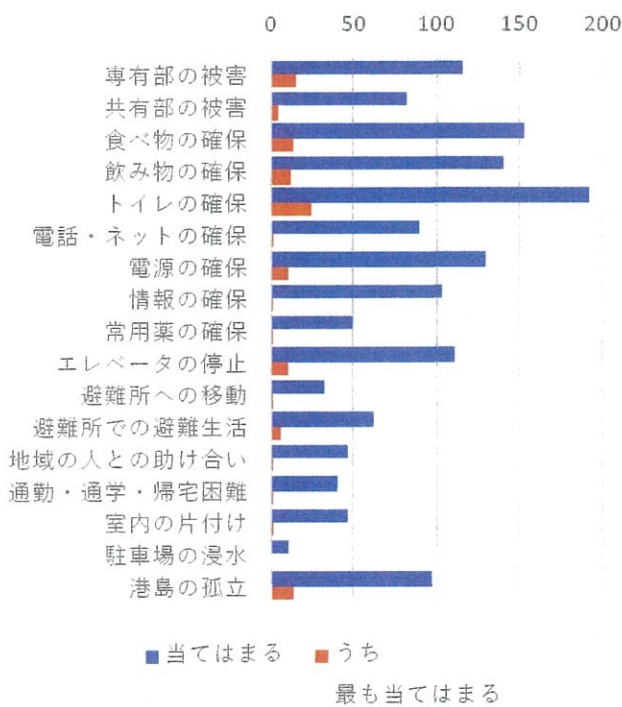
■2018年災害での被害（アンケート回答 n=268）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	5.6%	2.2%
共有部での被害	2.2%	2.6%
地域の被害	5.6%	1.5%
通勤・通学できなかった	10.1%	6.0%
帰宅困難になった	3.7%	1.1%
情報が入手できなかった	2.6%	0.0%
エレベーターが止まった	17.5%	2.2%
水道が止まった	13.1%	0.7%
電気が止まった	7.5%	0.4%
ガスが止まった	13.4%	0.7%
物資が確保できなかった	6.7%	0.0%
避難場所がわからなかった	1.1%	0.7%

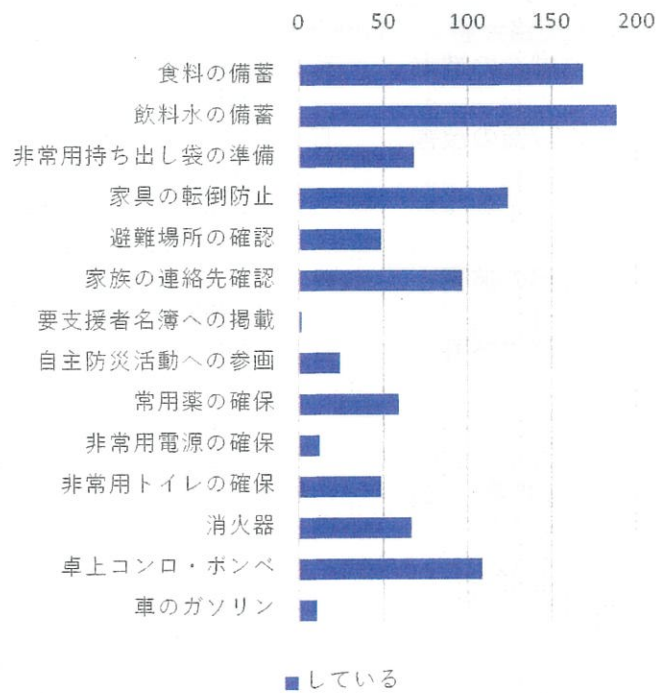
■防災訓練等の実施状況

回数 (総合防災訓練)	2 回/年
訓練内容	安否確認・避難訓練・起震車・煙ハウス体験・水消火器・屋内消火栓 担架・車イス・心肺蘇生(AED含む)ケガの手当(包帯・三角巾) 非常用発電機・衛星電話・階段避難車 等
訓練時期	4月初め 9~10月
参加者数	約 240 人(住民対象)
他の訓練	1 災害対策委員会 年10~12回 2 理事会各部(総務・環境・駐輪・コミュニティ 他) 年2回 3 市民救命士講習(普通救命1・ケガの手当コース) 年2回

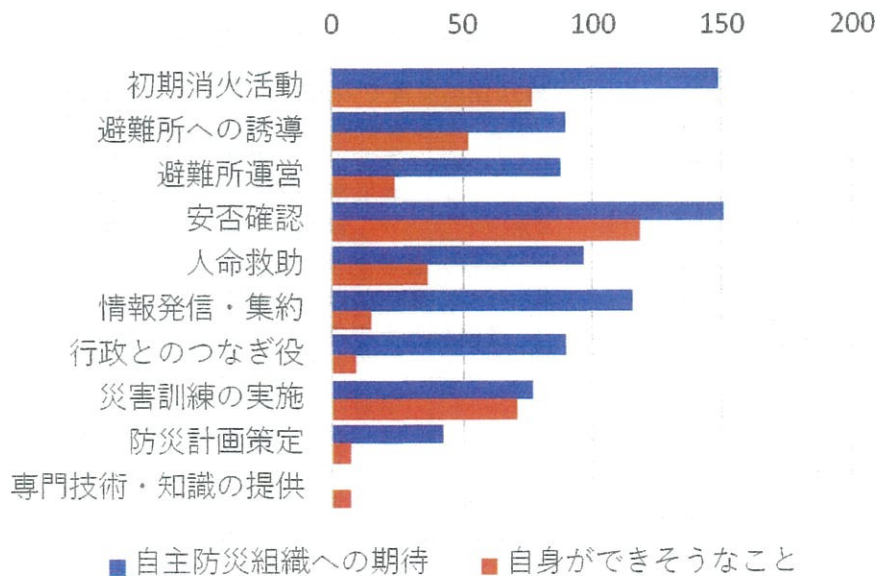
災害時の心配事(n=268)



自宅での災害対策(n=268)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=268)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震

耐震改修・大規模修繕工事は2年後に実施予定
高齢者が増えてきているが、引籠りの人への対応が課題。
家具固定等呼びかけするも反応が鈍い。

台風

屋根補強カバー・駐輪駐車場などの屋根の剥がれ。

地震津波

当マンションは海拔5m内外で、予想津波は3.9m 想定外があれば
1階の住民、電気室、倉庫、エレベーター階下等が心配

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減

2022年から始まる耐震改修・大規模修繕同時工事予定

人的被害の軽減

自助の啓蒙・食料・保存水・トイレ袋などの保存

家具固定の斡旋強化・ガラス飛散防止斡旋

避難行動の支援

自宅避難推奨する。その為には住民の安全対策を強力に。

その他

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標

家具固定の斡旋強化（特に高齢者）

住民の防災に対する意識向上

市民救命士講習参加者増加

取り組みのための計画

高齢者対策委員会、コミュニテイクラブの協力を得て家具固定の斡旋。

総合防災訓練・市民救命士講習など広報の方法等検討する。

ポー住の催し物（さくら祭り・夏祭り・餅つき大会 他）等と

連携して更にコミュニケーションを深めて、防災意識向上を図る。

ポートピアプラザ

■マンションの概要

マンション名	ポートピアプラザ		
竣工年月	1984	年	7月
総戸数	856	戸	
棟数	6	棟	
居住者数	約2000	人	

■防災組織

組織名	防災対策委員会
所属人数	12 人



■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	有	ABCD棟高層棟外壁亀裂多数
建物設備の被害	有	ABCD棟高層棟屋外給排水管脱落、受水槽破損
専有部の被害	有	CDF棟高層階電気温水器転倒多数、内壁亀裂多数
共用部の被害	有	ABCD棟高層階通路壁欠損、敷地内陥没多数

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

無

◇台風21号（2018年9月4日～）

専有部の被害	有	台風20号による被害多数(専有部内多数雨水浸水)
共用部の被害	有	台風20号による被害多数(集会室等雨水浸水)

■入居形態（アンケート回答 n=166）

	割合
自己所有	89.2%
親族所有	3.6%
法人所有	0.0%
賃貸	3.0%
その他	0.0%
無回答	4.2%

■阪神・淡路大震災の経験

(アンケート回答 n=166)	割合
経験した	41.6%
経験していない	58.4%
無回答	7.8%

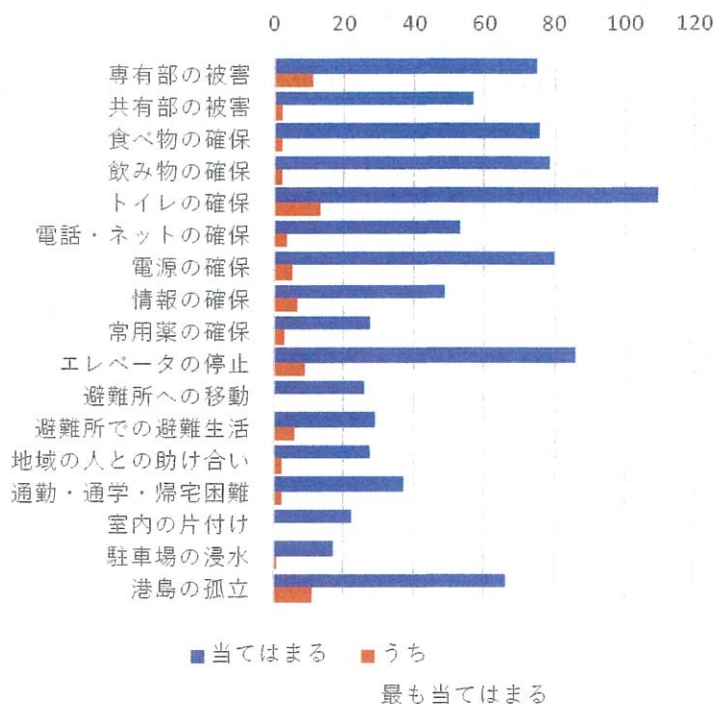
■2018年災害での被害（アンケート回答 n=166）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	5.4%	15.1%
共有部での被害	8.4%	6.6%
地域の被害	4.8%	6.6%
通勤・通学できなかった	9.0%	5.4%
帰宅困難になった	4.8%	3.0%
情報が入手できなかった	6.0%	0.0%
エレベーターが止まった	19.3%	6.6%
水道が止まった	10.2%	0.0%
電気が止まった	6.0%	0.6%
ガスが止まった	3.0%	0.0%
物資が確保できなかった	4.8%	0.0%
避難場所がわからなかった	1.2%	0.0%

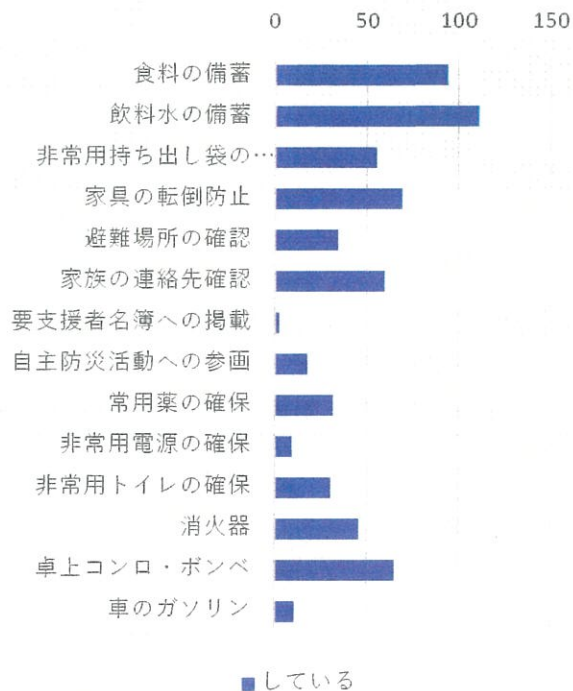
■防災訓練等の実施状況の実施

回数	3	回/年	(消防訓練2回、 防災訓練または防災イベント1回)
訓練内容	避難・通報・消火訓練、隔壁板破壊訓練、階段輸送訓練 総合防災訓練・防災イベント（どちらかを開催）		
訓練時期	5.9.11月	(毎年水上消防署への届出実績)	
参加者数	70~100	人	

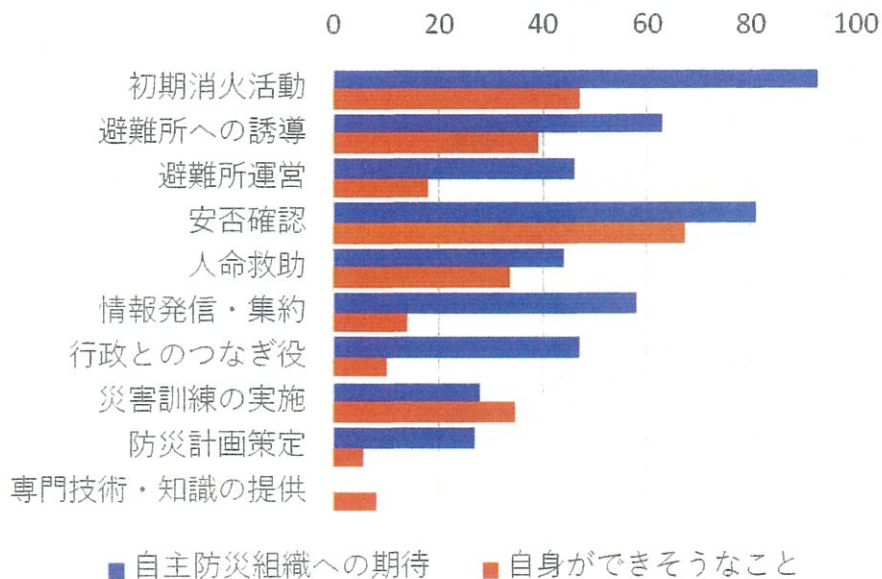
災害時の心配事(n=166)



自宅での災害対策(n=166)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=166)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震	無
台風	無
高潮	無
地震津波	海拔より6メートル以上に建築されているので特になし

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減	定期的な大規模修繕の確実な実施による耐震性能維持 アルミサッシ関連部品交換による防水性能の維持
人的被害の軽減	防災のしおり等のお知らせ徹底で被害軽減を図る
避難行動の支援	自衛消防隊組織及び防災対策委員会にて本部立上げにて誘導
その他	大小集会室・コミュニティルーム等にて避難者受入れ、非常食の確保 無

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標	防災備品の見直し購入・非常食の確保・非発燃料の確保
取り組みのための計画	1回/月の防災対策委員会にて上記目標鋭意検討

エバーグリーン ポートアイランド

■マンションの概要

マンション名	エバーグリーン ポートアイランド		
竣工年月	1981	年	5月
総戸数	686	戸	
棟数	10	棟	
居住者数	約2,000	人	



■防災組織

	(平常時)	(発災時)
組織名	防災対策委員会	防災対策本部運営委員会
所属人数	10人	38人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	有	
建物設備の被害	有	半壊認定
専有部の被害	有	
共用部の被害	有	

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

建物設備の被害	有	エレベーター停止。
専有部の被害	有	

◇台風21号（2018年9月4日～）

無

■入居形態（アンケート回答 n=130）

	割合
自己所有	90.0%
親族所有	4.6%
法人所有	0.8%
賃貸	2.3%
その他	0.0%
無回答	2.3%

■阪神・淡路大震災の経験

(アンケート回答 n=130)	割合
経験した	65.4%
経験していない	33.1%
無回答	1.5%

■2018年災害での被害（アンケート回答 n=130）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	13.1%	5.4%
共有部での被害	9.2%	8.5%
地域の被害	9.2%	3.1%
通勤・通学できなかった	12.3%	3.1%
帰宅困難になった	3.1%	2.3%
情報が入手できなかった	0.8%	0.0%
エレベーターが止まった	10.8%	0.0%
水道が止まった	16.2%	0.8%
電気が止まった	8.5%	0.0%
ガスが止まった	15.4%	0.0%
物資が確保できなかった	3.8%	0.8%
避難場所がわからなかった	0.0%	0.0%

■防災訓練の実施

回数

2 回/年

訓練内容

初期消火、避難誘導、建物被害確認、AED 等

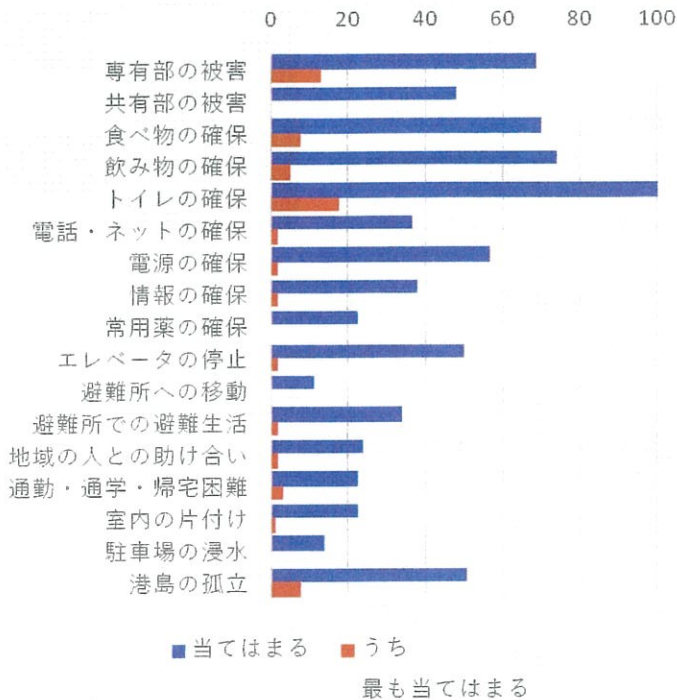
訓練時期

春1回 秋1回

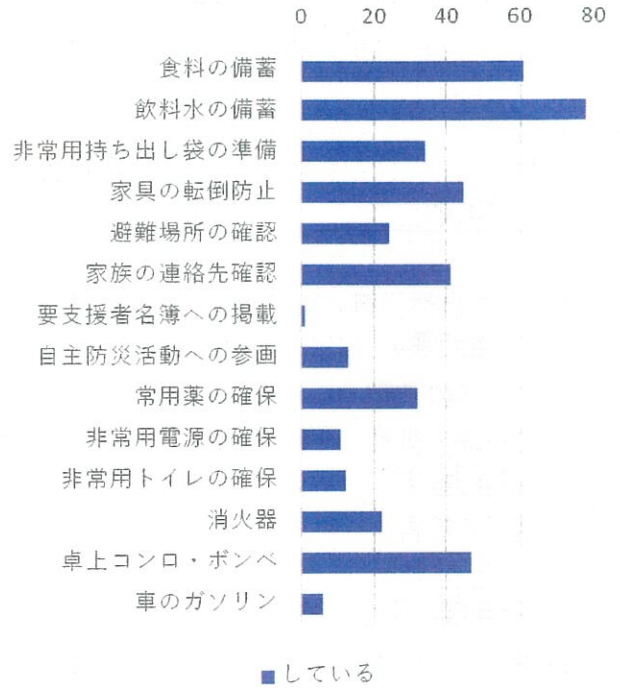
参加者数

約 70 人

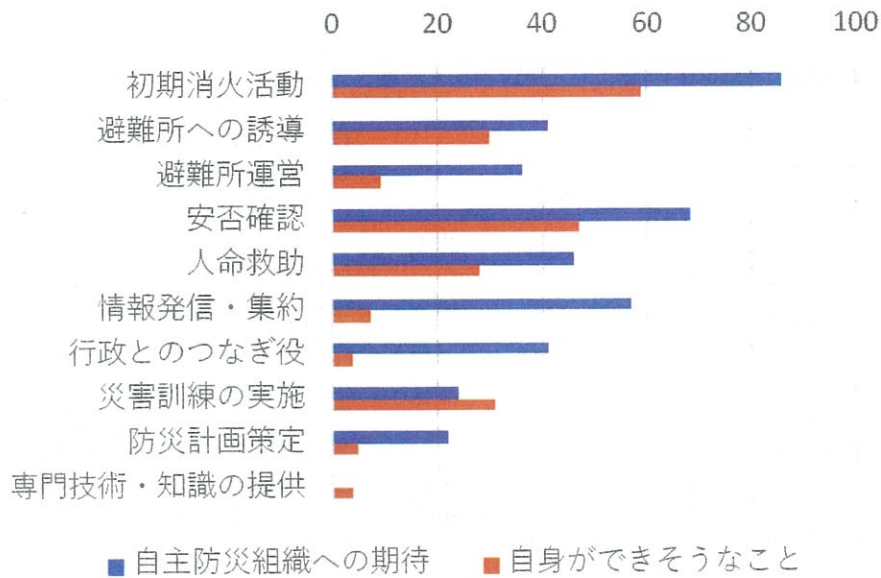
災害時の心配事(n=130)



災害時の心配事(n=130)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=130)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震	無
台風	無
高潮	有
地震津波	全体的に地下にある設備が心配。

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減	有
人的被害の軽減	家具転倒防止の案内、ドアに貼る「無事ですマグネット」の配付
避難行動の支援	階段用車いす、放送原稿、要支援者等のリスト など事前準備
その他	

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標	住民の防災力の向上
取り組みのための計画	<ul style="list-style-type: none">・定期的な住民参加型イベントの実施により日々のコミュニケーションをとり、互いの信頼感をつくる・広報による住民への啓蒙活動・防災対策本部の運営の研究

神戸パークシティ

■マンションの概要

マンション名	神戸パークシティ	
竣工年月	1984年	4月
総戸数	480戸	
棟数	3棟	
居住者数	1100人	

■防災組織

組織名	神戸パークシティ防災対策委員会
所属人数	6人



■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	有	特段の被害は無し。しかしながら、液状化の影響で、地面が下がり、1階部の階段を1段分（約20～30cm）増設。
建物設備の被害	有	電気部・エレベータ部・水槽部等、設備の被害は無し。特段の工事無し。
専有部の被害	有	食器棚倒壊（食器はほぼ全滅） 鏡台破壊。本棚・家具転倒。室内扉ズレ。
共用部の被害	有	ぶら下げ電灯壊滅。*大規模な修繕は無し。隣室との壁、かなりの比率でクラック有り。 *震災後の大規模修繕は無し。

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

無

◇台風21号（2018年9月4日～）

共用部の被害	有	ベランダ部の隔て板が延べ10箇所破損。⇒修繕対象
--------	---	--------------------------

■入居形態（アンケート回答 n=200）

	割合
自己所有	85.5%
親族所有	3.5%
法人所有	0.5%
賃貸	5.5%
その他	0.5%
無回答	4.5%

■阪神・淡路大震災の経験

(アンケート回答 n=200)	割合
経験した	51.0%
経験していない	47.5%
無回答	1.5%

■2018年災害での被害（アンケート回答 n=200）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	4.5%	2.5%
共有部での被害	4.5%	9.5%
地域の被害	4.5%	10.0%
通勤・通学できなかった	9.0%	5.0%
帰宅困難になった	3.0%	4.0%
情報が入手できなかった	2.5%	2.0%
エレベータが止まった	8.5%	0.0%
水道が止まった	11.0%	0.0%
電気が止まった	7.0%	0.5%
ガスが止まった	7.5%	0.0%
物資が確保できなかった	3.5%	0.0%
避難場所がわからなかった	0.0%	0.0%

■防災訓練の実施

回数

2回/年

訓練内容

住民参加・消火活動・機材点検・AED体験・見守り点検
・消防署からの話

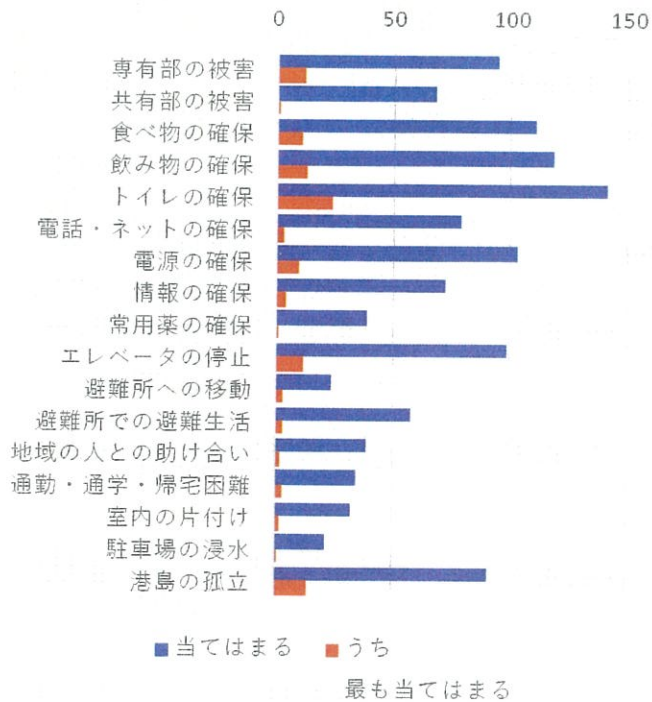
訓練時期

春と秋

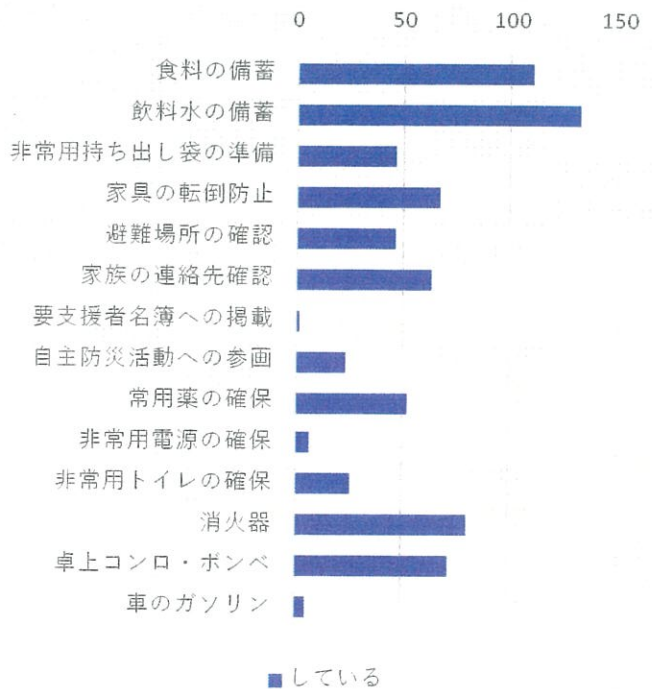
参加者数

100人

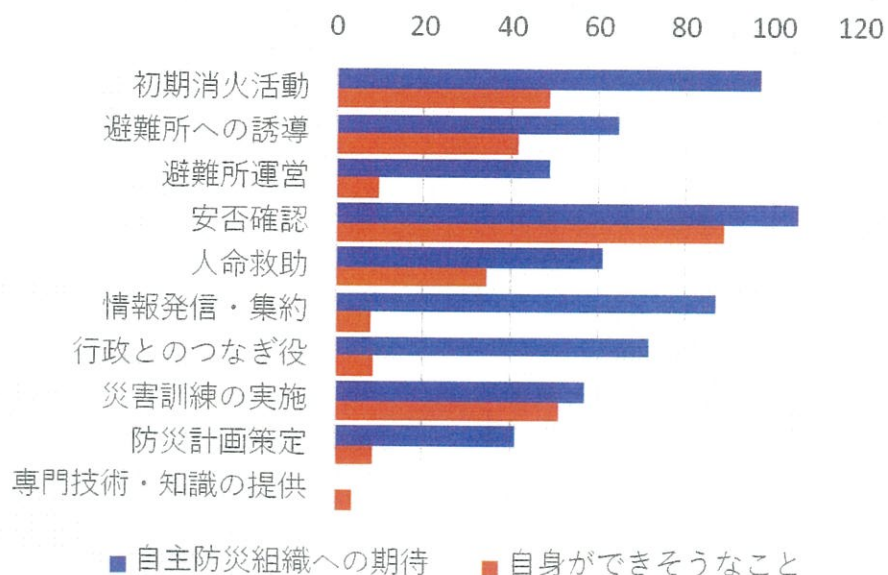
災害時の心配事(n=200)



自宅での災害対策(n=200)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=200)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震	災害後、築35年故、下水管の被害が心配。 対策で、非常用簡易トイレ全戸配布。 高齢者一人暮らしが増え、その見守り体制。
台風	ベランダ部に植木等のモノを多く於いているのが目立つ。 故にその整理整頓。
高潮	内水氾濫防止⇒落葉の日頃からの清掃（下水に流さない為）
地震津波	当マンション1階部が海拔3.5m。 想定される南海トラフ大地震の津波予測が3.9m。 掘って、1階にある電気部施設が水没の恐れ有り。 止水板・土嚢等の浸水対策。

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減	築35年越え故、外壁・設備等メンテナンスの早期対処の心掛け。
人的被害の軽減	防災対策委員会・高齢者対策委員会の連携（高齢者・身障者への見守りの迅速化）
避難行動の支援	前項も踏まえ、トランシーバ・拡声器・消火栓に設置の非常電話の活用及び訓練実施。
その他	防災訓練（年2回）への住民参加の徹底。消防署・消防団・地元自治会との連携と情報共有

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標	初期消火訓練・AED取扱者増・若い家族や子ども達の参加増 ・家具固定の徹底
取り組みのための計画	水上消防署（行政）と港島自治連合協議会との連携 ・住民とのコミュニケーション

神戸ポートビレジ

■マンションの概要

マンション名	神戸ポートビレジ		
竣工年月	1982年	3月	
総戸数	486戸	店舗等	50店
棟数	4棟		
居住者数	1,200人		



■防災組織

組織名	防災対策委員会
所属人数	57人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	有
建物設備の被害	有
専有部の被害	有
共用部の被害	有

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

専有部の被害	有
--------	---

◇台風21号（2018年9月4日～）

無

■入居形態（アンケート回答 n=161）

	割合
自己所有	88.2%
親族所有	7.5%
法人所有	0.0%
賃貸	3.1%
その他	0.0%
無回答	1.2%

■阪神・淡路大震災の経験

（アンケート回答 n=161）	割合
経験した	72.0%
経験していない	28.6%
無回答	0.6%

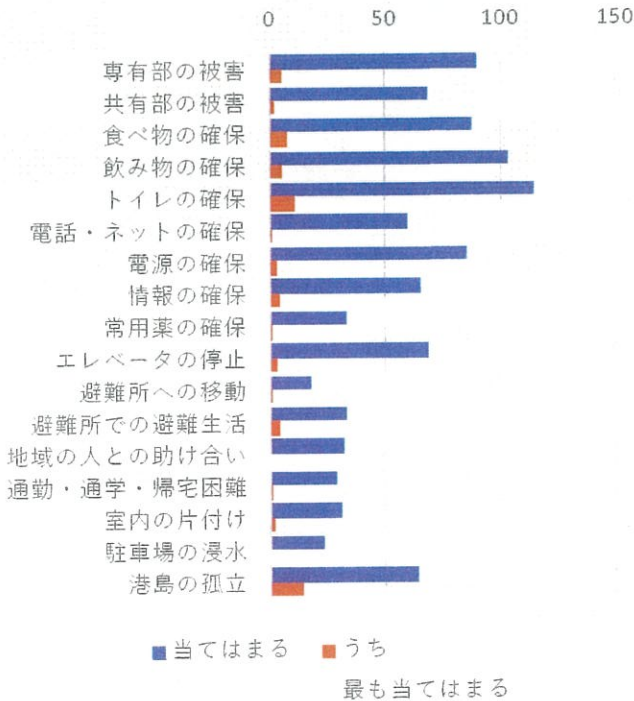
■2018年災害での被害（アンケート回答 n=161）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	8.7%	7.5%
共有部での被害	8.1%	1.9%
地域の被害	7.5%	5.0%
通勤・通学できなかった	8.1%	3.1%
帰宅困難になった	0.6%	3.1%
情報が入手できなかった	4.3%	0.6%
エレベーターが止まった	13.0%	0.6%
水道が止まった	11.8%	0.0%
電気が止まった	7.5%	0.0%
ガスが止まった	10.6%	0.0%
物資が確保できなかった	5.6%	0.0%
避難場所がわからなかった	1.2%	0.6%

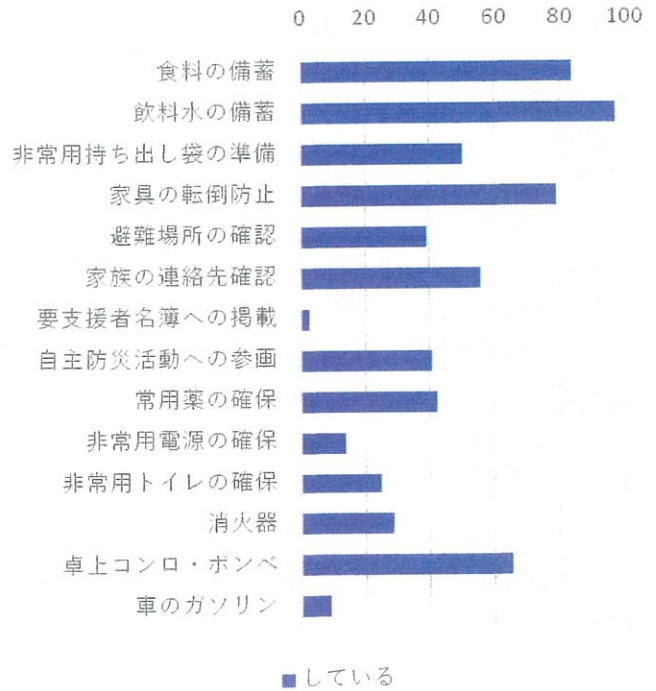
■防災訓練の実施

回数	2 回/年
訓練内容	管理会社の防災訓練(8月)、総合防災訓練(11月)
訓練時期	管理会社の防災訓練(8月)、総合防災訓練(11月)
参加者数	約100 人

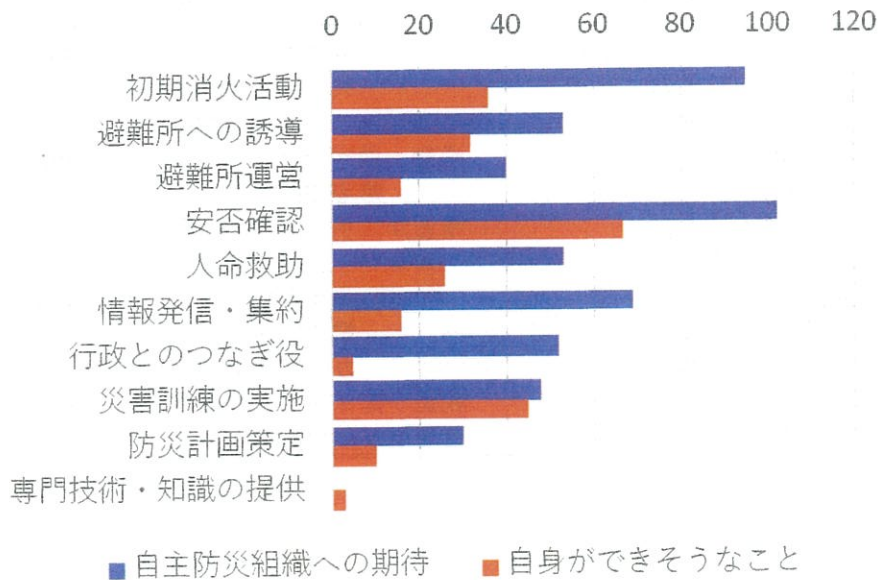
災害時の心配事(n=161)



自宅での災害対策(n=161)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=161)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震	無
台風	無
高潮	有
地震津波	地下階への浸水(駐車場、ボイラー室等)

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減	有
人的被害の軽減	エレベーター停止時に負傷者や足の悪い高齢者を階段避難車で地上階まで降ろす訓練を行っている。
避難行動の支援	エレベーター停止時に負傷者や足の悪い高齢者を階段避難車で地上階まで降ろす訓練を行っている。
その他	<u>災害時にLINE@でスマホに情報提供する体制を取っている。</u>

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標	①総合防災訓練の継続と質的向上 ②地区の防災計画に沿って住宅内避難の方策を策定 ③備蓄も検討
取り組みのための計画	地区の防災計画ができる2021年度に具体策を検討
神戸ポートビレッジ 防災計画策定	ビレッジの現在の防災組織は6年前に「神戸ポートビレッジ防災計画」を制定してスタートし、5つの班に組織を定め、防災用備品を整備した。現在の防災訓練等防災活動はこの防災計画に基づいて実施している。
総合防災訓練	毎年11月に安否確認、屋内消火栓の消火訓練、階段避難車による救出訓練、避難誘導訓練を行っている。毎回水上消防署と水上消防団港島分団のご協力を頂いている。
防災委員の高齢化	6年前に約50名の防災委員で75歳を上限としてスタートしたが、現在平均年齢が71.5歳(委員57名75歳以上が15名)になり、新しい人に入ってもらいか上限年齢を延ばさざるを得ない状況になっている。現在階段毎の「隣組」組織に再編することを検討している。

イトーピア神戸 ポートアイランド

■マンションの概要

マンション名 イトーピア神戸ポートアイランド
 竣工年月 年 月
 総戸数 戸
 棟数 棟
 居住者数 人



■防災組織

組織名
 所属人数 人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

- 建物構造の被害
- 建物設備の被害
- 専有部の被害
- 共用部の被害

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

◇台風21号（2018年9月4日～）

無

■入居形態（アンケート回答 n=43）

n=43	割合
自己所有	93.0%
親族所有	0.0%
法人所有	0.0%
賃貸	2.3%
その他	0.0%
無回答	4.7%

■阪神・淡路大震災の経験

n=43	割合
経験した	0.0%
経験していない	100.0%
無回答	0.0%

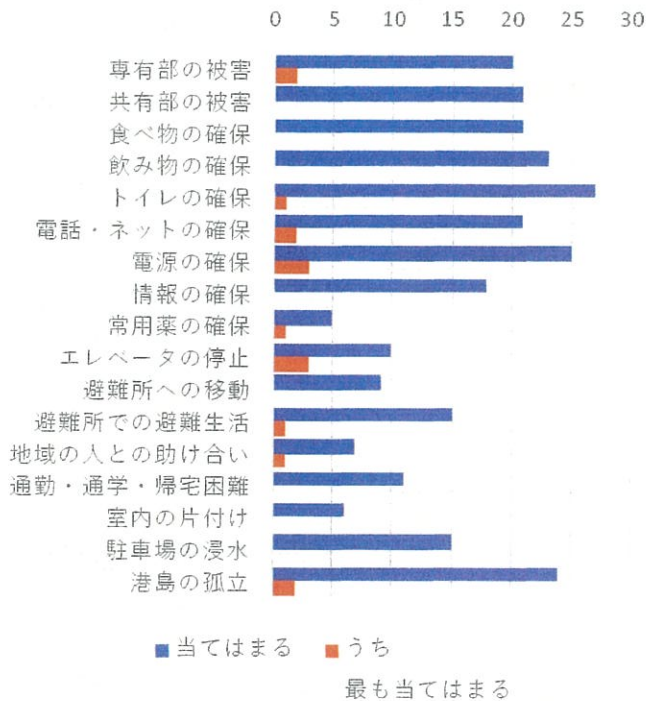
■2018年災害での被害（アンケート回答 n=43）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	2.3%	9.3%
共有部での被害	4.7%	34.9%
地域の被害	2.3%	20.9%
通勤・通学できなかった	7.0%	16.3%
帰宅困難になった	2.3%	4.7%
情報が入手できなかった	0.0%	0.0%
エレベーターが止まった	4.7%	4.7%
水道が止まった	2.3%	0.0%
電気が止まった	2.3%	0.0%
ガスが止まった	2.3%	0.0%
物資が確保できなかった	0.0%	0.0%
避難場所がわからなかった	0.0%	2.3%

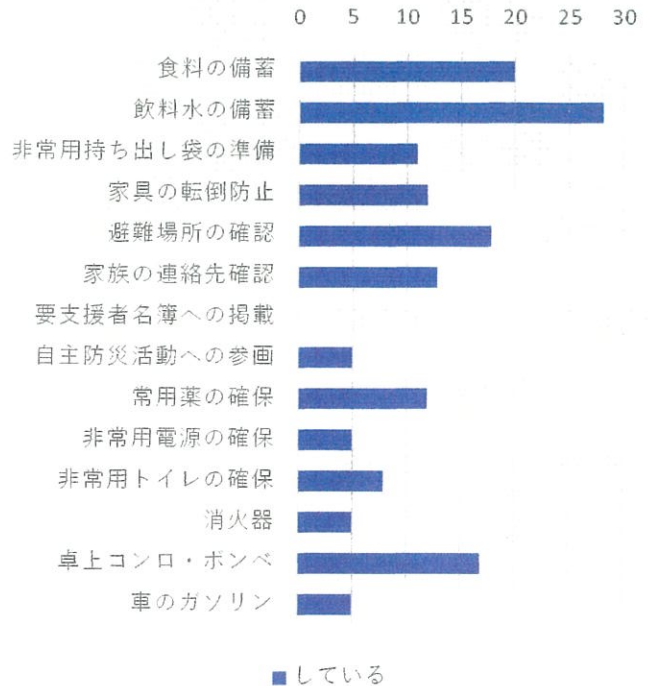
■防災訓練の実施

回数 回/年
 訓練内容
 訓練時期
 参加者数 人

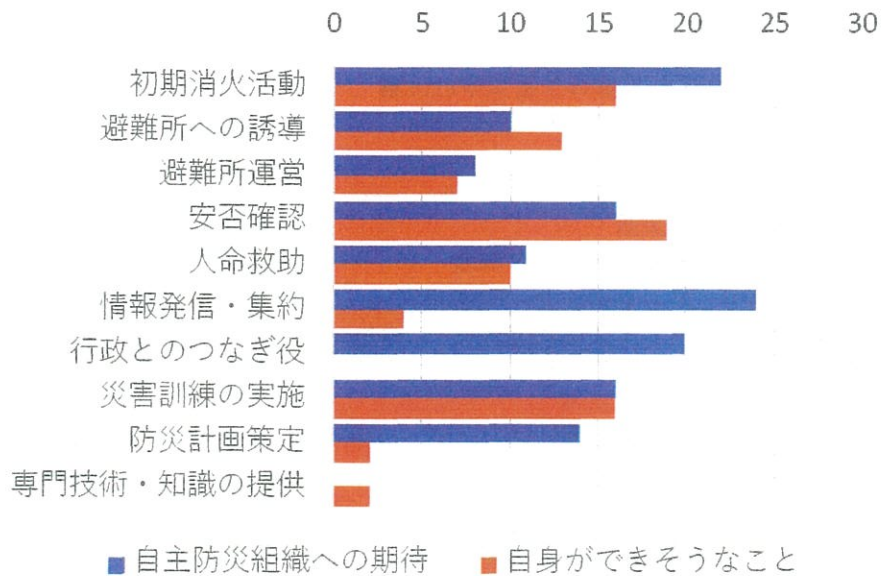
災害時の心配事(n=43)



自宅での災害対策(n=43)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=43)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震

台風

高潮

地震津波

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減

人的被害の軽減

避難行動の支援

その他

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標

取り組みのための計画

ルイシャトレ神戸 ポートアイランド

■マンションの概要

マンション名	ルイシャトレ神戸ポートアイランド	
竣工年月	平成18年	11月
総戸数	96	戸
棟数	2	棟
居住者数	不明	人



■防災組織 未組成

組織名	
所属人数	人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	未竣工
建物設備の被害	
専有部の被害	
共用部の被害	

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

専有部の被害	有
--------	---

◇台風21号（2018年9月4日～）

建物設備の被害	有	駐車場の浸水
専有部の被害	有	ベランダパーテーションの破損
共用部の被害	有	廊下の継ぎ目雨漏り

■入居形態（アンケート回答 n=21）

	割合
自己所有	95.2%
親族所有	4.8%
法人所有	0.0%
賃貸	0.0%
その他	0.0%
無回答	0.0%

■阪神・淡路大震災の経験

（アンケート回答 n=21）	割合
経験した	4.8%
経験していない	95.2%
無回答	0.0%

■2018年災害での被害（アンケート回答 n=21）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	0.0%	4.8%
共有部での被害	0.0%	61.9%
地域の被害	0.0%	14.3%
通勤・通学できなかった	4.8%	14.3%
帰宅困難になった	0.0%	0.0%
情報が入手できなかった	0.0%	0.0%
エレベーターが止まった	0.0%	0.0%
水道が止まった	0.0%	0.0%
電気が止まった	0.0%	0.0%
ガスが止まった	0.0%	0.0%
物資が確保できなかった	0.0%	0.0%
避難場所がわからなかった	0.0%	4.8%

■防災訓練の実施

回数

回/年 過去に1~2回行ったことがある

訓練内容

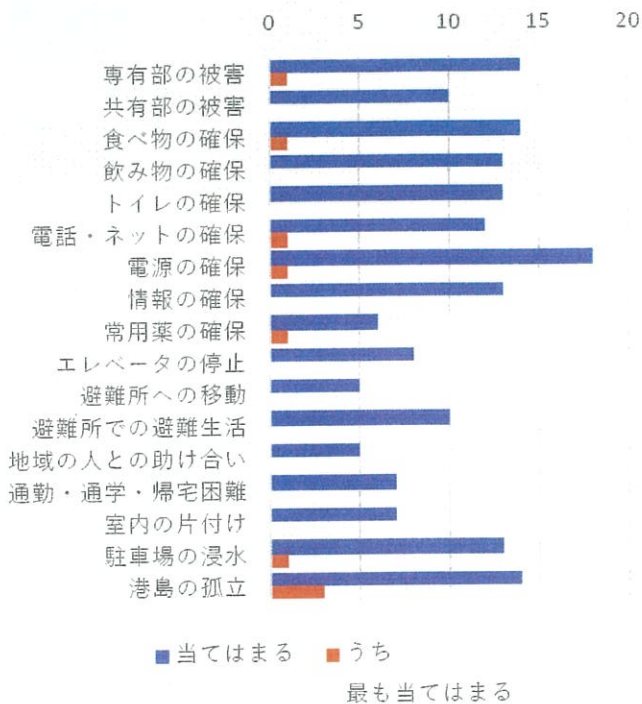
避難訓練

訓練時期

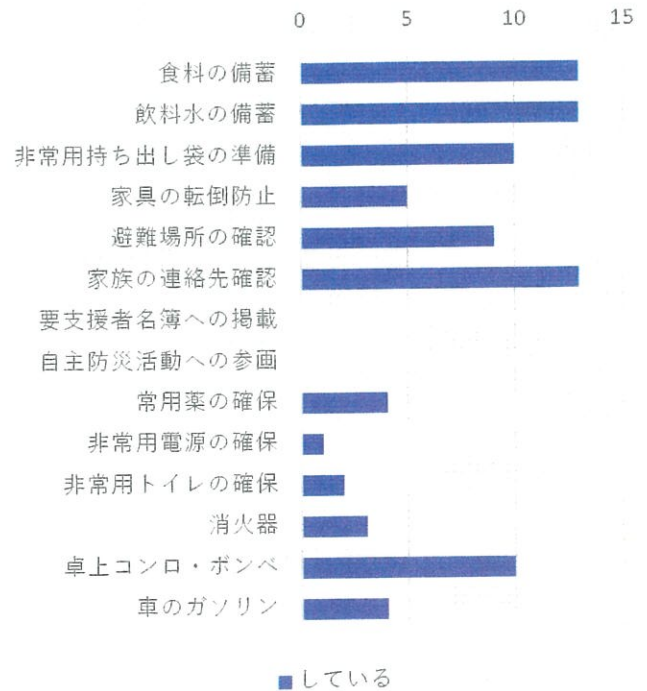
参加者数

人

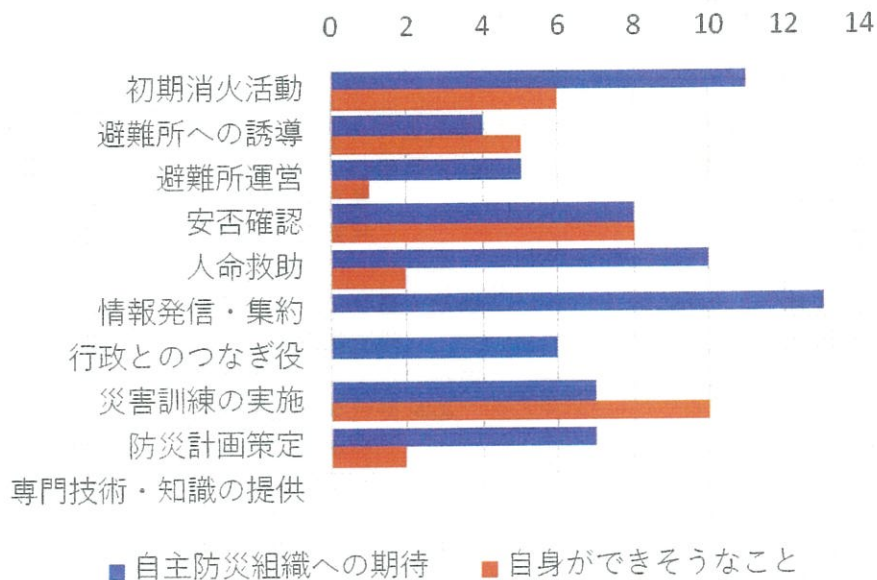
災害時の心配事(n=21)



自宅での災害対策(n=21)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=21)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震	無
台風	無
高潮	有
地震津波	浸水・避難場所、経路

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減	有
人的被害の軽減	特に行っていない
避難行動の支援	特に行っていない
その他	浸水が予想される際、下層階の乗用車を上層階にあらかじめ避難させる

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標
取り組みのため
の計画

アルス神戸ポートアイランド

■マンションの概要

マンション名	アルス神戸ポートアイランド		
竣工年月	2004	年	3月
総戸数	76	戸	
棟数	1	棟	
居住者数	約200	人	



■防災組織

組織名	組織無し
所属人数	人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	未竣工
建物設備の被害	
専有部の被害	
共用部の被害	

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

無

◇台風21号（2018年9月4日～）

無

■入居形態（アンケート回答 n=28）

	割合
自己所有	89.3%
親族所有	7.1%
法人所有	0.0%
賃貸	3.6%
その他	0.0%
無回答	0.0%

■阪神・淡路大震災の経験

(アンケート回答 n=28)	割合
経験した	10.7%
経験していない	89.3%
無回答	0.0%

■2018年災害での被害（アンケート回答 n=28）

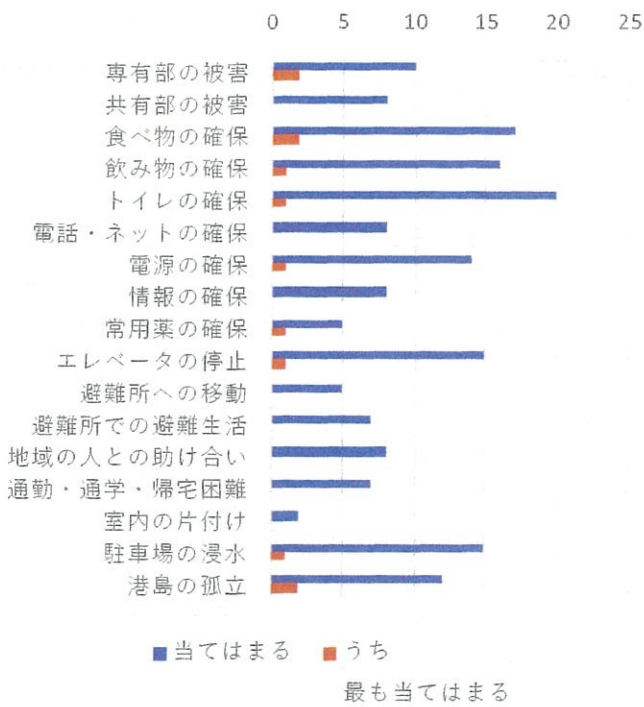
被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	3.6%	10.7%
共有部での被害	0.0%	14.3%
地域の被害	0.0%	7.1%
通勤・通学できなかった	7.1%	17.9%
帰宅困難になった	7.1%	3.6%
情報が入手できなかった	0.0%	0.0%
エレベータが止まった	7.1%	14.3%
水道が止まった	3.6%	0.0%
電気が止まった	0.0%	0.0%
ガスが止まった	7.1%	3.6%
物資が確保できなかった	0.0%	0.0%
避難場所がわからなかった	3.6%	3.6%

■防災訓練の実施

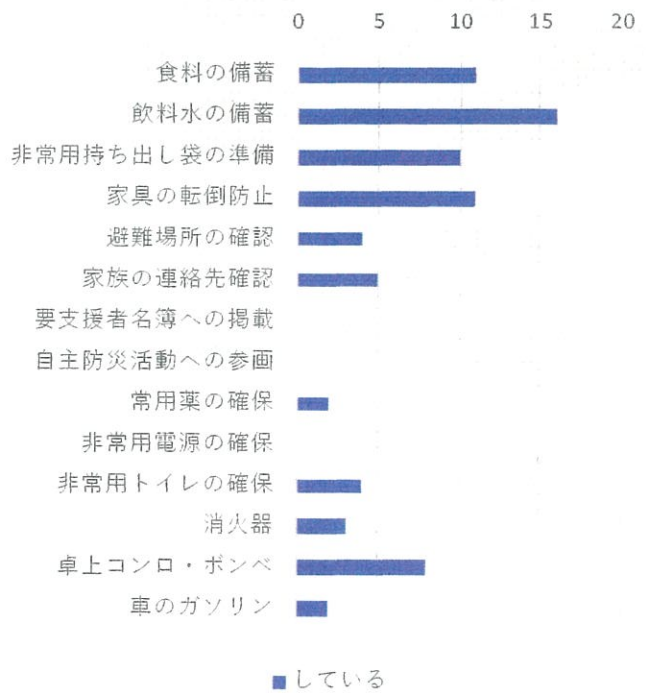
回数
訓練内容
訓練時期
参加者数

10数年前に一度実施。
地震の揺れを体験出来る車に來所いただき、
住民(特に子ども)地震の揺れを体験していただいた。

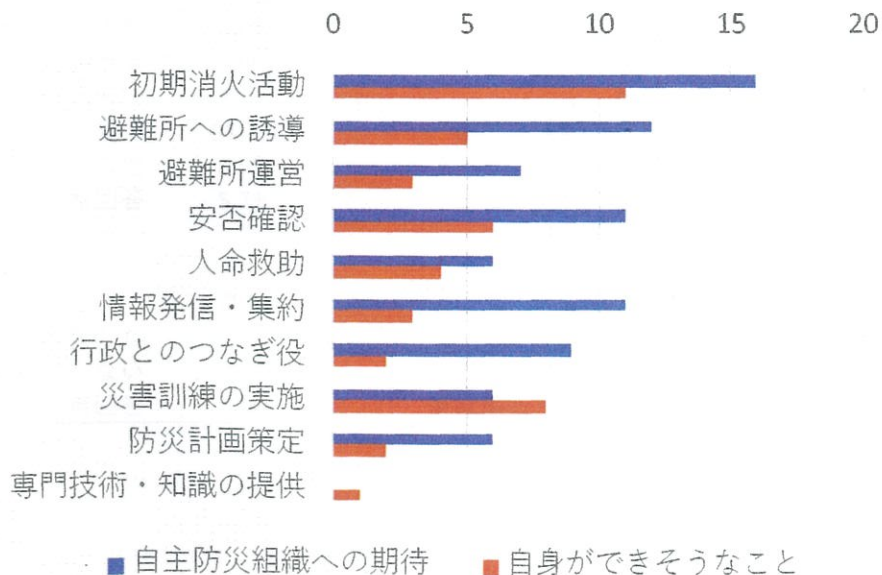
災害時の心配事(n=28)



自宅での災害対策(n=28)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=28)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震	無
台風	無
高潮	有
地震津波	

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減

人的被害の軽減

避難行動の支援

その他

今のところ予定無し
住民に問題意識を持ってもらう方法が課題

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標

取り組みのための計画

URポートアイランド

■マンションの概要

マンション名	URポートアイランド		
竣工年月	1980	年	1月
総戸数	2200	戸	
棟数	17	棟	
居住者数	不明	人	社宅も多い



■防災組織

組織名	URコミュニティ
所属人数	人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

建物構造の被害	有
共用部の被害	有

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

専有部の被害	有
--------	---

◇台風21号（2018年9月4日～）

共用部の被害	有
--------	---

■入居形態（アンケート回答 n=123）

	割合
自己所有	0.0%
親族所有	0.0%
法人所有	3.3%
賃貸	91.1%
その他	0.0%
無回答	5.7%

■阪神・淡路大震災の経験

(アンケート回答 n=123)	割合
経験した	22.8%
経験していない	74.8%
無回答	2.4%

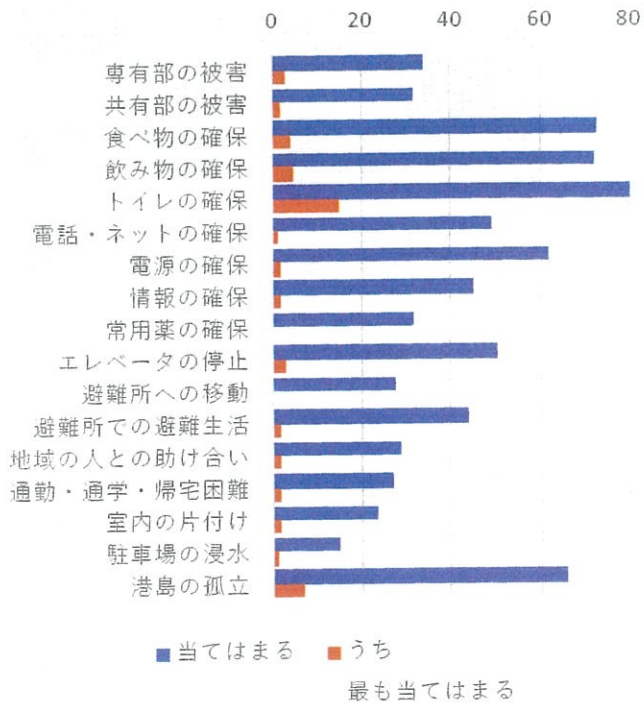
■2018年災害での被害（アンケート回答 n=123）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	1.6%	1.6%
共有部での被害	0.8%	2.4%
地域の被害	0.8%	8.9%
通勤・通学できなかった	8.1%	8.9%
帰宅困難になった	4.9%	4.9%
情報が入手できなかった	3.3%	0.0%
エレベータが止まった	5.7%	1.6%
水道が止まった	7.3%	1.6%
電気が止まった	3.3%	3.3%
ガスが止まった	5.7%	0.8%
物資が確保できなかった	3.3%	0.8%
避難場所がわからなかった	1.6%	1.6%

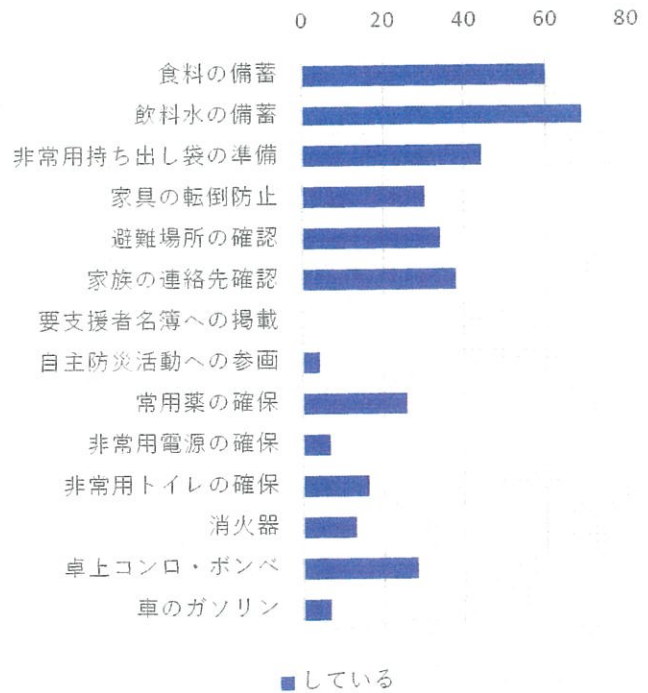
■防災訓練の実施

回数	1~2	回/年
訓練内容	火災、避難、救命、救急	
訓練時期	2月、6月	
参加者数	約20	人

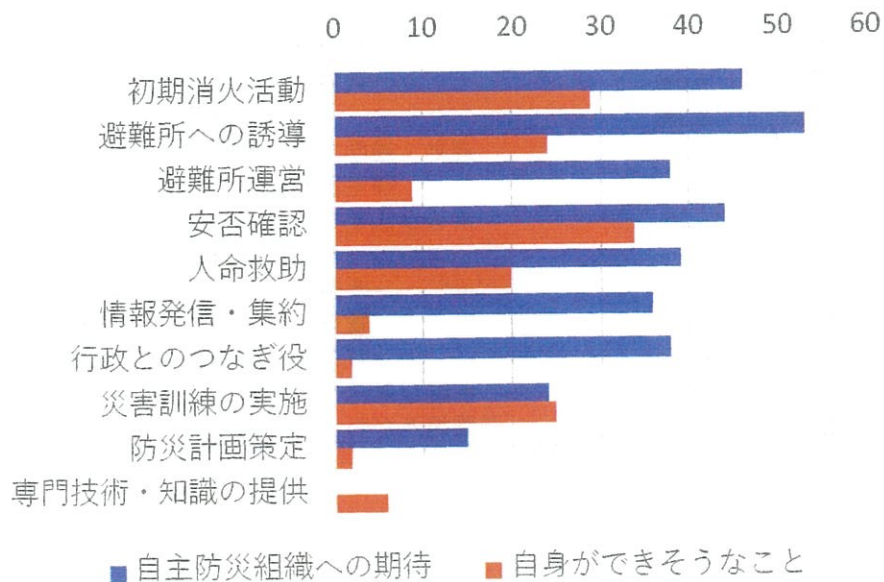
災害時の心配事(n=123)



自宅での災害対策(n=123)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=123)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震	無
台風	無
高潮	有
地震津波	

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減	有
人的被害の軽減	有
避難行動の支援	有
その他	有

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標	アンケート回収率も含めた、防災意識の向上 UR住民に対する有事の際の避難場所（備蓄品等設置場所含む）の周知および情報の共有
取り組みのための計画	URコミュニティ、UR自治会でのミーティングを実施、 具体的計画について協議を行っていく
その他	令和2年度より、神戸市「家具の固定促進事業」の無料実施（2家具まで無料）の資格制限が撤廃されるため、防災啓発事業のきっかけとして展開していくことになった。建築物の構造に影響を与えない範囲で、一部届出は必要だが原状復帰義務がないこともURとの協議で確認済である。 自治会、管理会社（URコミュニティ）、地元警察（水上署）と不定期に協議の場を設けることになった。ここで団地環境の整備の一環として団地としての備蓄品についても今後協議を進めていくことを予定している。

市営住宅港島

■マンションの概要

マンション名	市営住宅港島		
竣工年月	年		月
総戸数	戸		
棟数	棟		
居住者数	人		

■防災組織

組織名	
所属人数	人

■これまでの自然災害による被害（管理組合等で把握しているもの）

◇阪神・淡路大震災（1995年1月17日）

- 建物構造の被害
- 建物設備の被害
- 専有部の被害
- 共用部の被害

◇大阪北部地震（2018年6月18日）

◇台風21号（2018年9月4日～）

■入居形態（アンケート回答 n=108）

	割合
自己所有	0.9%
親族所有	1.9%
法人所有	1.9%
賃貸	75.9%
その他	6.5%
無回答	13.0%

■阪神・淡路大震災の経験

(アンケート回答 n=108)	割合
経験した	59.3%
経験していない	39.8%
無回答	0.9%

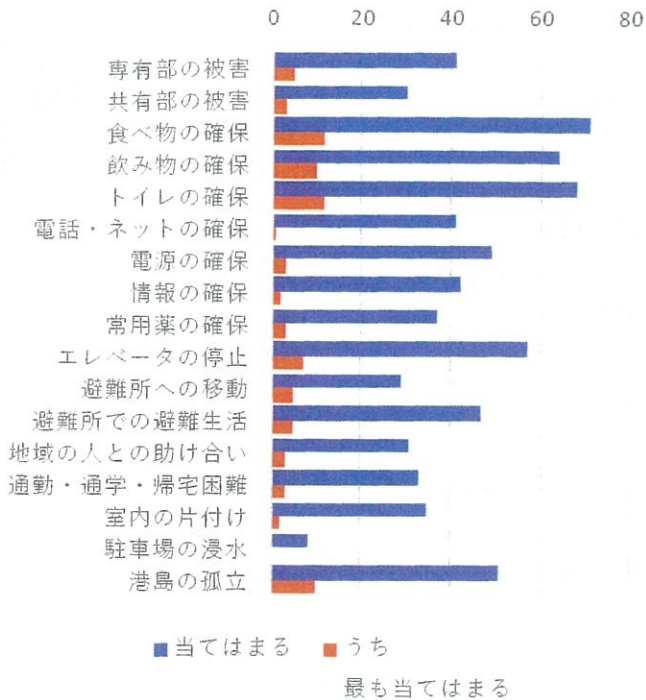
■2018年災害での被害（アンケート回答 n=108）

被害状況	大阪北部地震	台風21号
専有部での被害	9.3%	5.6%
共有部での被害	8.3%	3.7%
地域の被害	8.3%	8.3%
通勤・通学できなかった	13.9%	3.7%
帰宅困難になった	5.6%	3.7%
情報が入手できなかった	6.5%	1.9%
エレベータが止まった	19.4%	3.7%
水道が止まった	26.9%	0.9%
電気が止まった	17.6%	0.9%
ガスが止まった	26.9%	0.9%
物資が確保できなかった	11.1%	0.0%
避難場所がわからなかった	2.8%	0.0%

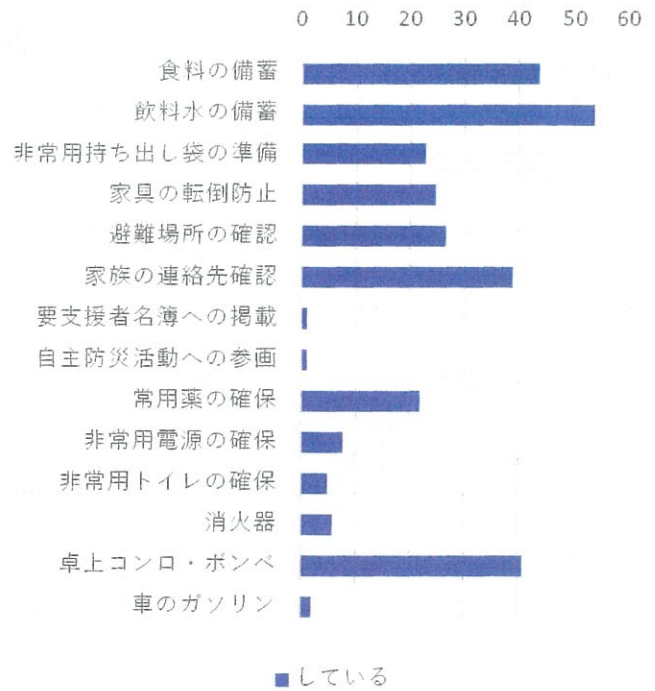
■ 防災訓練の実施

回数 回/年
 訓練内容
 訓練時期
 参加者数 人

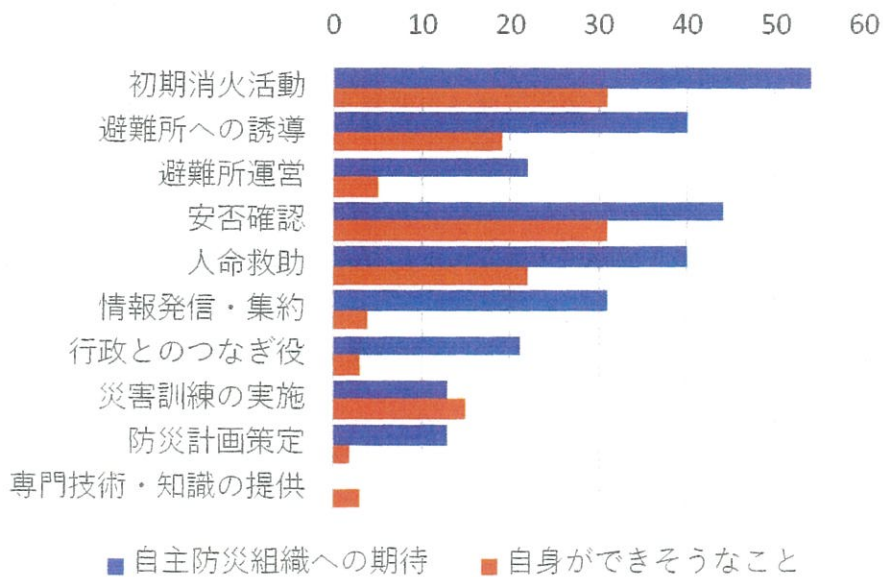
災害時の心配事(n=108)



自宅での災害対策(n=108)



自主防災組織への期待と自身ができそうなこと(n=108)



■今後の災害発生時において懸念されること

地震

台風

高潮

地震津波

■被害軽減に向けた工夫や取り組み

建物被害の軽減

人的被害の軽減

避難行動の支援

その他

■今後の取り組みの目標と予定

取り組みの目標

取り組みのための計画

令和元年 11 月 10 日
港島治連合協議会
港島地区防災対策委員会

神戸学院大学附属中学防災ジュニアチーム結成に向けて（案）

—この提案資料は、水上消防署と検討して作成したものです。—

1 活動概要

「自分の身は自分で守る人へ・助けられる人から助ける人へ」という自助・共助の意識と思いやりの心を育み、さらに将来、地域における防災リーダーや消防団員を志す人材育成を目的とし、中学生を対象としたジュニア防災チームの設立を、神戸学院附属中学校に提案いたします。

隊員として4月から翌年3月まで1年間任命し、各種防災訓練を実施します。

また、カリキュラム終了の3月には、水上消防署から修了証が交付されます。

2 構成

所属防災福祉コミュニティ	港島自治連合協議会内	港島地区防災対策委員会
チーム名	神戸学院大学附属中学防災ジュニアチーム	
発足日	令和2年4月〇日	
活動日	毎月1回（土曜日又は日曜日）（仮）	
関係団体		
神戸学院大学附属中学	ジュニアチーム隊員の在籍する中学校	
港島ふれあいセンター	地区防災学習・訓練	
港島消防団	水上消防団港島分団	消火訓練等
水上消防署	各種防災学習の指導	

3 活動に係る経費について

- ・港島自治連合協議会（防災福祉コミュニティ）の傘下として活動すれば、運営活動費などの助成が可能。
- ・「神戸市市民活動補償制度」もしくは「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」などの保険制度を活用する。

以上

年間予定(案)

- 4月 **入隊式・規律訓練**
 ・整列、敬礼など基本的な行動訓練を行う
- 5月 **消防署施設見学・講話**
 ・消防署の役割・機能を知る。
 ・過去の災害を振り返り、消防がどう対応してきたか。市民の力がいかに大切かを知る
 ・自分たちに出来ること(日頃の備え、災害発生時の対応など)
- 6月
 7月 } **地域の仕組み・街歩き(避難所・危険箇所を知る)**
 ・地域の仕組み(組織)を知る
 ・学校の周りの危険箇所(水が溜まりやすい場所、交通量が多いなど)、
 避難所・津波避難ビルの標識等を意識的に見てマップを作成する。
- 8月 **放水訓練**
 ・可動式ポンプ、消火用ホースを使用し放水する
 ・9月の訓練披露に向け練習をする
- 9月 **放水訓練披露**
 ・学校の消防訓練の際には、生徒のリーダーとして活動する。
 ・可能であれば、放水訓練を実施する
- 10月 **リーダー研修**
 ・地域のリーダーとは何かを学ぶ
 ・消火器やロープの結び方、搬送方法等
- 11月 **マンションの消防訓練に参加**
 ・リーダー研修で学んだことが実際の地域でどう活かされているのかを知る
 ・地域でどのようにして訓練をしているのか。
 ・実際に、消火器の使い方などの指導を行う
- 12月 **市民救命士講習(心肺蘇生法 もしくは ケガの手当て)**
 ・市民救命士講習を受講し、資格をとる
- 1月 **人と未来防災センター見学**
 ・阪神淡路大震災の記憶、南海トラフ沖地震への備えを学び体験する
 ・備蓄品の必要性
- 2月 **防災ゲーム**
 ・クロスロードなどの防災ゲームを使い、考え、意見を出し合い、答えを導き出す
 ※学校行事として実施し、ジュニアチームは進行役として活動する
- 3月 **修了式・年度の振り返り**
 ・修了証を交付
 ・1年の振り返りを行う



第12345号

修了証

港島太郎殿

あなたは、令和〇年度港島ジュニア
防災クラブのカリキュラムを全て修
了しました。

今後、地域の防災リーダーとして活
躍されることを期待します

令和〇年三月一日

港島自治連合協議会

会長 川岸 政光

神戸市水上消防署

署長 定岡 由典

この事業は、「公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構」と
「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けて実施しています。

港島自治連合協議会 内
港島地区防災対策委員会

〒650-0046

神戸市中央区港島中町 2-3-7

TEL (078)303-1213 FAX (078)381-7133